

独立行政法人 農畜産業振興機構
養豚経営対策補完事業

養豚農業実態調査報告書 (全国集計結果)

令和元年度

令和2年3月
一般社団法人日本養豚協会
(JPPA)

はじめに

養豚農業実態調査は、養豚業におけるコスト削減や生産性の向上の取組等の実態把握・分析をすることにより、養豚経営の体質強化に資することを目的に、農林水産省所管の独立行政法人農畜産業振興機構からの補助を受けて実施するもので、養豚生産者を対象に実施しました。

令和元年度の本調査では、「都道府県にある養豚生産者組織」及び「当協会」が把握している全養豚生産者に対し調査票（3,128件）を配布し、回答をいただきました。回答が得られたのは811件でした。このうち、経営中止、休業等の無効回答及び廃業を除いた756経営体について全国、地域別、子取り用雌豚頭数規模別等で集計・分析したものです。

基礎的な経営実態をみるため、経営形態、従業員数、後継者の有無、種豚頭数、飼養頭数、肉豚出荷状況、事故率、人工授精の実施状況、経営の動向、など定型設問のほか、最近の課題となっている給与飼料、人工授精技術、衛生管理、環境対策、アニマルウェルフェア、共済への加入の有無、豚肉輸出、農場HACCP・GAPなどについて調査を行いました。

この調査結果が、養豚生産者の方々の今後のコスト削減や生産性向上のための参考として活用いただければ幸いです。

この報告書を作成するに当たり、調査に回答いただきました養豚経営者の方々、また、調査の御指導、調査票の回収及び記入内容のチェック等に御尽力いただきました方々に深謝申し上げます。

令和2年3月

一般社団法人日本養豚協会(JPPA)

■調査結果の概要

令和元年度の調査は、「都道府県にある養豚生産者組織(以下「都道府県養豚協会」という)」及び「(一社)日本養豚協会」が令和元年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象に調査を実施した。

本年度調査の令和元年度調査は、平成30年度と同様に原則経営体単位で集計した。

なお、回答数は、設問毎の回答数を示しているため、複数回答の設問については、回答数が回答経営体数を上回る場合がある。また、同じ項目でありながら回答数、回答経営体数に差異が生じているのは、クロス集計(経営タイプが一貫生産の子取り用雌豚頭数規模別の事故率等)の場合、対応する項目の回答数、回答経営体数が異なることによるものである。

□1.調査回答状況

令和元年度の調査は、都道府県養豚協会及び当協会が令和元年8月1日現在確認できている養豚生産者を対象(3,177件。前年度調査において調査票を配布し回答がなくても廃業報告がなされなかった者を含む)に調査を実施した。

回答が得られたのは811件(廃業等を含む)で、全国集計結果の集計に使用したのは回答の中から廃業報告・無効を合わせた55経営体を除いた756経営体である。

(注) 経営体数は、農場を複数有し複数の都道府県に所在する経営体については都道府県ごとにカウントした。ただし、当該経営体が複数県まとめて回答してきた場合は1経営体としてカウントした。

□2.経営関係

(1) 経営形態

経営形態A	割合
個人経営(家族労働主体)	36.0
法人経営(農事組合法人・有限会社 株式会社 その他)	58.4
農業協同組合法人(農協等)の直営養豚場	1.7
その他(都道府県、公益法人、学校法人等)	3.9

(%)

経営形態B	割合
会社、農協、民間養豚場等の契約 預託農場である	12.8
会社、農協、民間養豚場等の契約 預託農場ではない	87.2

(%)

(2) 経営タイプ

経営タイプ	割合
一貫経営	86.5
肥育経営	9.0
繁殖経営	4.6

(%)

□3.従事者について

従事者数に回答があったのは737経営体で、従事者数合計は7,097人である。

従事者数の内訳は、家族1,184人、常勤雇員5,118人、非常勤雇員166人、その他(豚肉加工、販売等)629人である。1経営体当たりの合計平均従事者数は9.6人、家族2.7人、常勤雇用12.7人、非常勤雇用2.3人、その他19.1人である。

□4.後継者について

後継者の有無	割合	平均年齢
決まっている	28.6	36.7
対象者はいるが、現在は決まっていない	16.6	27.7
自分の年齢が若いので考えていない	11.4	-
後継者はいない後継者は考えていない	26.9	-
経営形態が後継者と関係ない(株式会社等)	16.4	-

(%) (歳)

□5.飼養頭数について

子取り用雌豚の全頭数は280,434頭で、そのうち純粋種は45,291頭(16.2%)、交雑種は235,143頭(83.8%)である。交雑種の内訳は、LW:28.8%、WL:13.0%、LW、WLいずれか:21.7%、その他の組合せ:12.6%、海外ハイブリッド:23.7%である。

種雄豚の全頭数は8,046頭で、そのうち純粋種は6,152頭(76.5%)、交雑種は1,894頭(23.5%)である。

□6.肉豚の出荷状況(平成30年8月～令和元年7月)

肉豚出荷日齢平均(生後日齢)	184.0日齢
平均出荷時体重	114.2kg
平均枝肉重量	75.0kg
1日平均増体重	620.7g/日

□7.繁殖・肥育等の成績(平成30年8月～令和元年7月)

平均哺乳開始頭数	11.3頭
平均離乳頭数	10.1頭
平均育成率	89.3%
平均受胎率	88.3%
平均分娩回数	2.2回

□ 8. 事故率低減のための取組み

事故率低減のために対策を取った経営体は全体の89.3%と約9割で対策を実施している。対策方法としては「ワクチネーションプログラムの適切な見直し・変更」が59.4%と最も多い、次いで「農場の衛生ゾーンの明確化、長靴の履き替え・消毒の徹底」58.0%、「管理獣医師等による定期的な指導を受けている」51.8%などが上位の対策方法である。

□ 9. 家畜共済の加入状況について

家畜共済の加入率は全体の44.0%。共済に加入していない理由は「掛金に対して支払が見合わない」が33.7%で最も高い。

□ 10. 交配について

自然交配での回数は「2回」が24.9%、「1回」が4.2%の順。人工授精では「2回」23.8%、次いで「3回」19.1%、自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工受精1回」が10.5%と高くなっている。

自然交配のみが33.1%、人工授精のみが43.5%、自然交配と人工授精の併用が20.0%となっている。

人工授精における深部注入の実施については、「全て深部注入」30.4%、「深部注入と普通の人工授精を併用」20.0%、合わせて50.4%と半数の農場で実施している。

□ 11. 飼料について

給与飼料	割合
市販配合飼料のみ	82.5
市販配合飼料+自家配合飼料	13.7
自家配合飼料のみ	3.8

(%)

給与飼料内容	割合
配合飼料	76.3
エコフード利用配合飼料	0.3
飼料用米利用配合飼料	19.1
飼料用米	0.0
子実用トウモロコシ	0.0
エコフード	4.0
食品残さ	0.1
その他の単味飼料	0.1

(%)

□ 12. 経営の推移と今後の動向（飼育頭数の推移）

繁殖豚では、「増やした」経営体数が12.3%で、昨年度の12.9%より0.6%減少している。「減らした」は13.7%と、昨年度の12.6%より1.1%増加、「変更していない」は74.0%となっている。頭数では、「増やした」が17,229頭、「減らした」が3,754頭で全体で13,475頭増加している。

肥育豚では、「増やした」経営体が8.4%、「変わらない」が83.2%、「減らした」が8.4%だった。頭数では、「増やした」が61,346頭、「減らした」が10,656頭で50,690頭増加している。

□13.経営の推移と今後の動向（今後の養豚経営の意向）

「経営を拡大する」が32.5%と前年度より3.4%増加した。「現状維持」57.7%、「経営を縮小」が9.8%と、「現状維持」の割合が減少し、「拡大」の意向が増加した。経営者の年代別では、拡大するでは、「20・30才代」で53.5%。「40才代」が47.8%と若年層が目立って高い。「縮小・廃業する」では、「70才～」で19.1%が目立った。

□14.衛生管理について

実施している衛生管理は「各豚舎に消毒槽を設置している」が79.6%と8割近くが実施、次いで、「車両消毒を徹底している」75.4%、「農場に入る際は、専用の作業着に着替える」66.6%、「訪問者の台帳を作成している」58.0%、「長靴の靴底の洗浄・消毒を1日の作業後に毎日している」52.0%が上位だった。

オールイン・オールアウトの実施は、全部実施17.5%、一部実施26.2%と合計で43.7%が実施している。

□15.環境対策について

過去1年以内に住民等からの悪臭苦情の有無では、「ある」と回答した経営体は17.2%で、約2割弱。昨年度18.5%よりやや減少した。

苦情については、「県・市・町・村等行政を介して言われた」10.5%、「住民等から直接言われた」5.5%、「その他の方法で言われた」が1.2%となった。

□16.アニマルウェルフェアについて

アニマルウェルフェアの取り組みの状況については、アニマルウェルフェアを「知っている」が86.2%、「知らない」が13.8%と認知率は昨年度の80.9%より増加している。

認知者の内容は、「内容をよく知らない」21.4%、「さらに情報が欲しい」15.4%、「アニマルウェルフェアの考え方を採用」14.4%などである。

□17.輸出について

生産している豚肉に係る輸出の取り組みについては、「既に輸出している」1.4%、「準備中」0.5%、「機会があれば輸出したい」6.3%、「販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」2.4%と、輸出をする、あるいは輸出希望との回答は10.6%だった。

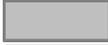
□18.農場 HACCP・GAPについて

農場HACCPの導入有無では、「導入している」16.3%と昨年度の10.5%より5.8%増加している。

HACCP未導入の農場の動向は「現在申請中」3.7%、「導入を検討中」9.9%、「今後導入を検討」27.6%、「JGAP取得を検討」1.5%、「JGAPに取り組むことを検討」3.0%、「導入予定はない」54.3%だった。

■1.調査回答状況	P.7
■2.経営関係	P.8
■3.従事者について	P.10
■4.後継者について	P.12
■5.飼養頭数について	P.13
■6.肉豚の出荷状況	P.18
■7.繁殖・肥育等の成績	P.20
■8.事故率低減のための取組みについて	P.23
■9.家畜共済の加入状況について	P.24
■10.交配について	P.25
■11.飼料について	P.29
■12.経営の推移と今後の動向	P.34
■13.衛生管理について	P.45
■14.環境対策について	P.47
■15.アニマルウェルフェアについて	P.52
■16.輸出について	P.54
■17.農場 HACCP・GAP について	P.55
■付帯資料:養豚農業実態調査票	

<数表上の表記について>

 全体より5%以上高いスコアにマーキング
 全体より5%以上低いスコアにマーキング
 N数が10未満のため参考値

注:集計結果は小数点1位で四捨五入して算出しているため、
合計値が必ずしも100%にはならない

■1.調査回答状況

□地域別・規模別回答状況

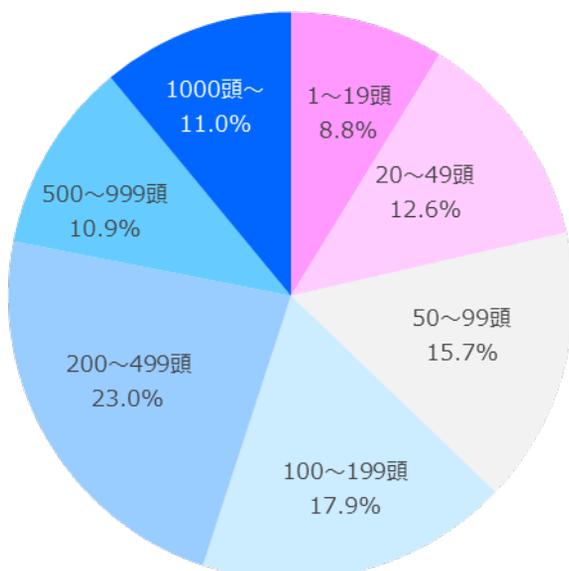
- ① 令和元年度の調査(令和元年8月1日現在)は、「平成30年度養豚基礎調査で回答があった養豚経営者または農場責任者」と「都道府県養豚協会等が確認できている養豚経営者又は農場責任者」を対象として3,177経営体に行い、回答が得られたのは811経営体である。
- ② 集計に使用したのは 廃業報告・無効を合わせた55経営体を除く756 経営体である。
- ③ 経営者の平均年齢は58.9歳で、前年より0.1歳高くなった。地域別では、最も平均年齢が高いのは「近畿」の61.5歳、最も低いのは「東海」の57.8歳となっている。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では「200～499頭」が23.0%、出荷頭数規模別では「4,000～9,999頭」が20.6%と最も多かった。

【表1】 回答状況・経営者性別・年齢：地域別 (N=811)

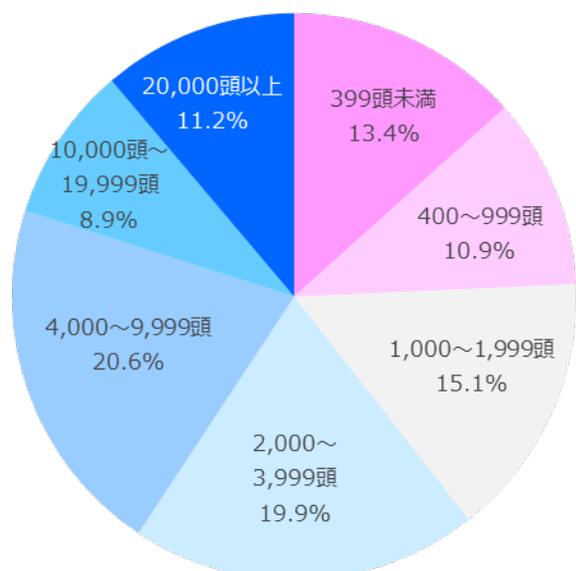
	回答数	廃業報告	無効回答数	有効回答数	回答者の性別			平均年齢
					男性	女性	不明	
全国	811	47	8	756	678	26	52	58.9
北海道・東北	193	4	1	192	180	3	9	58.1
関東	216	5	3	213	193	9	11	60.0
北陸	26	0	0	26	24	1	1	58.7
東海	64	6	0	64	60	0	4	57.8
近畿	17	2	0	17	13	0	4	61.5
中国・四国	52	0	1	51	43	1	7	58.6
九州・沖縄	197	30	4	193	165	12	16	58.6

(経営体数) (人) (歳)

【図1】 回答割合：子取り用雌豚飼養規模別 (N=625)



【図2】 回答割合：出荷頭数規模別 (N=642)



■2.経営関係

□経営形態

- ① 「法人経営」の割合が435経営体・58.4%と最も高く、次いで「個人経営」の268経営体・36.0%となっている。
- ② 地域別にみると全地域で「法人経営」の割合が一番高いが、「個人経営」の割合が高いのは「関東」90(42.9%)、「近畿」7(41.2%)。「近畿」は「個人経営」と「法人経営」が41.2%で同率となっている。また「北海道・東北」は「法人経営」が128(66.7%)と高い割合になっている。

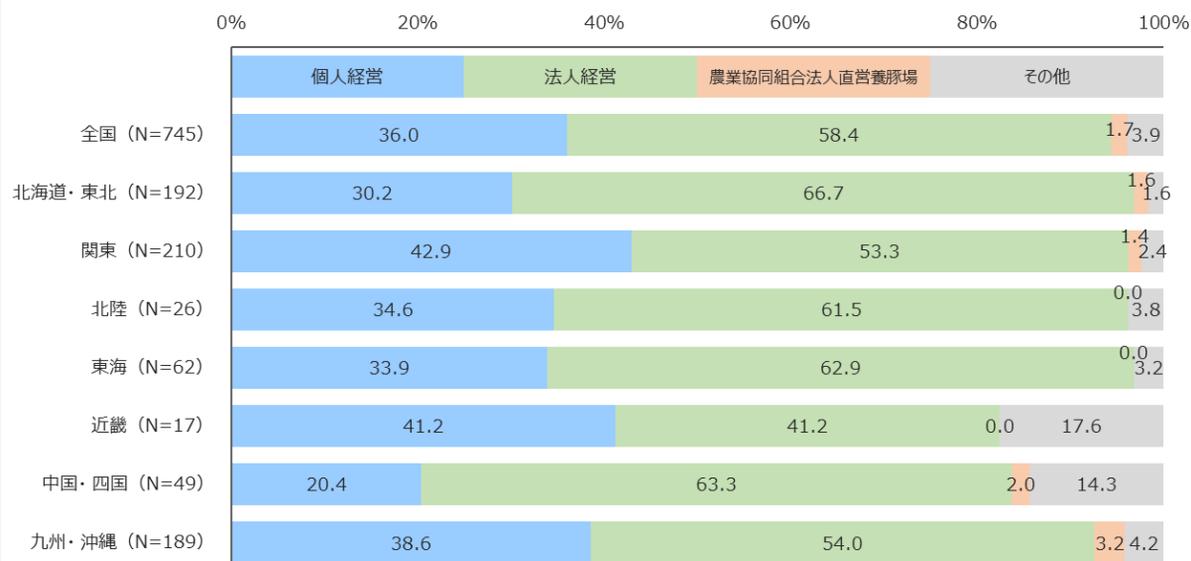
【表2】 経営形態：地域別 (N=745)

	N=	個人経営*	法人経営**	農業協同組合法人の直営養豚場	その他***
全国	745	268	435	13	29
うち契約・預託	60	28	26	5	1
北海道・東北	192	58	128	3	3
関東	210	90	112	3	5
北陸	26	9	16	0	1
東海	62	21	39	0	2
近畿	17	7	7	0	3
中国・四国	49	10	31	1	7
九州・沖縄	189	73	102	6	8

(経営体数) (経営体数)

*家族労働主体 **農事組合法人、有限会社、株式会社、その他 ***都道府県、公益法人、学校法人等

【図3】 経営形態：地域別 (N=745)



□経営タイプ

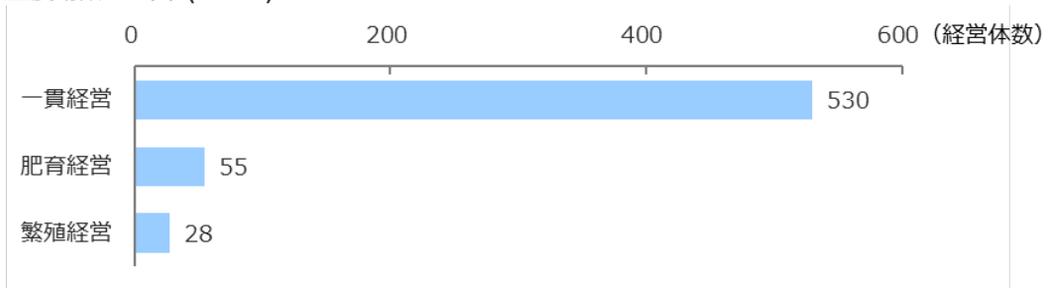
- ① 経営タイプでは、「一貫経営」が最も多く、次いで「肥育経営」、「繁殖経営」となっている。
- ② マルチサイト経営の内訳では「【肥育】肥育豚」の農場が83と最も多く、繁殖経営の内訳では「子取り用雌豚(PS)」が28と最も多かった。

[表3] 経営タイプ：地域別 (N=613)

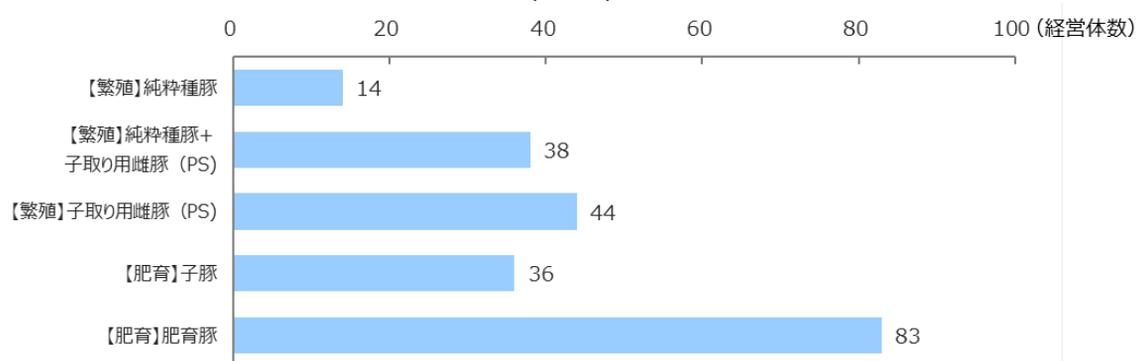
	N=	一貫経営	肥育経営	繁殖経営
全国	613	86.5 (530)	9.0 (55)	4.6 (28)
北海道・東北	154	87.7 (135)	7.1 (11)	5.2 (8)
関東	176	90.3 (159)	8.0 (14)	1.7 (3)
北陸	22	95.5 (21)	0.0 (0)	4.5 (1)
東海	55	81.8 (45)	9.1 (5)	9.1 (5)
近畿	14	64.3 (9)	35.7 (5)	0.0 (0)
中国・四国	45	84.4 (38)	8.9 (4)	6.7 (3)
九州・沖縄	147	83.7 (123)	10.9 (16)	5.4 (8)

(経営体数) (% (経営体数))

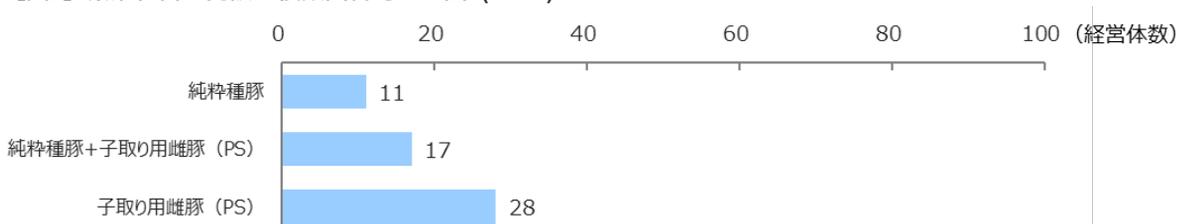
[図4] 肉豚生産農場数：全国 (N=613)



[図5] マルチサイト経営の内訳：複数回答可・全国 (N=111)



[図6] 繁殖経営の内訳：複数回答可・全国 (N=50)



■3.従事者について

□従業員数

- ① 養豚従事者数に回答のあった経営体は737で、「常勤雇用」が最も多く5,118人、次いで「家族」1,184人だった。前年と比較すると「常勤雇用」598人減(前年比89.5%)、「家族」304人減(79.5%)、「非常勤雇用」30人減(84.7%)、「その他」33人増(105.5%)、全体では901人減(88.7%)となっている。
- ② 規模別の平均従事者数では、「その他」の全体平均人数が前年比5.4人増の19.1人。規模別にみると「500～999頭」の「その他」、「1,000頭～」の「常勤雇用」「その他」が減り、「20～49頭」の「その他」が増えている。

【表4】 雇用形態別養豚従事者人数：複数回答可・全国 (N=712)

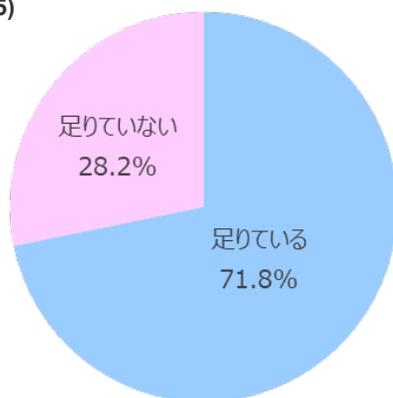
	合計	家族労働*	常勤雇用**	非常勤雇用***	その他****	
全体	712経営体	67.7 (482)	59.4 (423)	9.4 (67)	4.4 (31)	% (経営体数)
従事者合計	6,878人	17.1 (1,178)	73.0 (5,021)	2.2 (153)	7.6 (526)	% (経営体数)
平均値		2.7	13.8	2.3	18.1	(人)
最大値		30	213	21	294	(人)
最小値		1	1	1	1	(人)

*経営主本人、配偶者、子、孫、きょうだい、父母、祖父母等 **社員、契約社員、パート、アルバイト

必要な日、必要な時間で雇用 *豚肉加工 販売など担当

注：都道府県試験場、学校法人などは、飼養頭数と従事者の数値が一般的な養豚農場とは異なるため除外している

【図7】 従業員の充足度:全国 (N=645)



【表5】 雇用形態別養豚従事者平均人数：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=589)

	N=	家族労働	常勤雇用	非常勤雇用	その他
全体	589	2.7	13.1	2.3	18.1
1～19頭	36	1.8	3.3	3.5	-
20～49頭	68	1.9	1.9	1.5	1.5
50～99頭	96	2.5	1.9	1.4	1.0
100～199頭	112	2.9	2.8	1.4	4.4
200～499頭	143	3.7	5.7	1.7	5.4
500～999頭	67	2.9	14.2	3.3	11.5
1,000頭～	67	3.2	47.6	3.1	58.1

(経営体数) (人)

【表6】雇用形態別養豚従事者（A）：複数回答可・地域別（N=712）

	N=	家族労働	常勤雇員	非常勤雇員	その他
全国	712	2.7	13.1	2.3	18.1
北海道・東北	186	2.6	14.3	2.2	11.5
関東	204	2.6	12.4	2.5	32.3
北陸	25	2.3	8.2	1.3	2.0
東海	61	3.8	7.8	2.5	9.0
近畿	14	2.0	3.4	1.0	3.5
中国・四国	43	2.6	10.5	1.5	18.0
九州・沖縄	179	2.7	16.1	2.9	15.5

(経営体数) (人)

【表7】雇用形態別養豚従事者平均人数（B）：子取り用雌豚飼養規模別（N=589）

	N=	家族労働のみ	家族労働と常勤雇員	家族労働と非常勤雇員	家族労働と常勤雇員と非常勤雇員	常勤雇員のみ	常勤雇員と非常勤雇員	非常勤雇員のみ
全体	589	2.5 (203)	8.9 (150)	3.7 (14)	15.0 (28)	18.8 (177)	27.4 (14)	5.7 (3)
1～19頭	36	1.8 (29)	-	-	-	5.0 (2)	6.0 (2)	-
20～49頭	68	2.0 (54)	3.0 (3)	2.8 (4)	-	2.2 (7)	-	-
50～99頭	96	2.6 (66)	3.0 (13)	3.6 (5)	6.5 (2)	2.7 (10)	-	-
100～199頭	112	3.2 (42)	4.3 (43)	5.3 (4)	6.8 (4)	5.8 (15)	5.5 (2)	2.0 (2)
200～499頭	143	4.4 (11)	8.3 (64)	-	9.8 (13)	7.4 (50)	6.6 (5)	-
500～999頭	67	-	12.6 (11)	-	12.8 (4)	15.7 (49)	20.5 (2)	13.0 (1)
1,000頭～	67	1.0 (1)	33.2 (14)	-	41.4 (5)	53.5 (44)	79.0 (3)	-

(経営体数) (人 (回答者数))

【表8】雇用形態別養豚従事者平均人数（B）：地域別（N=712）

	N=	家族労働のみ	家族労働と常勤雇員	家族労働と非常勤雇員	家族労働と常勤雇員と非常勤雇員	常勤雇員のみ	常勤雇員と非常勤雇員	非常勤雇員のみ
全国	712	2.5 (270)	8.9 (165)	3.7 (16)	15.0 (31)	18.8 (210)	27.4 (17)	5.7 (3)
北海道・東北	186	2.4 (55)	10.4 (40)	4.8 (4)	15.1 (7)	18.4 (75)	17.5 (4)	13.0 (1)
関東	204	2.5 (75)	9.2 (60)	4.0 (4)	18.0 (11)	18.3 (46)	29.7 (6)	2.0 (2)
北陸	25	2.0 (12)	5.7 (3)	3.0 (1)	8.0 (2)	13.8 (6)	7.0 (1)	-
東海	61	2.8 (30)	9.9 (12)	-	13.0 (1)	10.8 (17)	9.0 (1)	-
近畿	14	1.7 (3)	4.2 (6)	2.0 (1)	10.0 (1)	5.0 (1)	6.5 (2)	-
中国・四国	43	2.7 (17)	9.0 (8)	-	8.0 (1)	14.9 (16)	6.0 (1)	-
九州・沖縄	179	2.5 (78)	7.6 (36)	3.2 (6)	14.3 (8)	24.0 (49)	91.5 (2)	-

(経営体数) (人 (回答者数))

■4.後継者について

□後継者について

- ① 後継者に回答のあったのは709経営体で、うち「決まっている」が28.6% (203経営体) で候補者の平均年齢は 36.7歳、「対象者はいるが、現在は決まっていない」が16.6% (118経営体) で対象者の平均年齢は27.7歳。「後継者はいない・考えていない」が26.9% (191経営体) だった。前年比でそれぞれ、0.4%減、0.5%減、2.8%増となっており、大きな変動はみられなかった。
- ② 「経営形態が後継者と関係がない」は16.4%で、前年度の19.2%から2.8%減となっている。
- ③ 子取り用雌豚規模別では、最も(後継者が)「決まっている」との回答が多かったのが100～199頭規模で、同規模では41.3%の農場で後継者が決まっている。逆に最も「後継者がない・考えていない」と回答したのは20～49頭規模で52.6%、半数以上に後継者がないとの結果が出ている。

【表9】 後継者の有無・平均年齢：全国 (N=709)

	決まっている	対象者はいるが、 現在は 決まっていない	自分の年齢が 若いので 考えていない	後継者はいない・ 考えていない	経営形態が後継者 と関係がない (株式会社等)
回答経営体数	203	118	81	191	116
割合 (%)	28.6	16.6	11.4	26.9	16.4
年齢回答経営体数	192	88	-	-	-
平均年齢	36.7	27.7	-	-	-

(%)

歳)

【表10】 後継者の有無・平均年齢：子取り用雌豚飼養規模別 (N=607)

	N=	決まっている	対象者はいるが、 現在は 決まっていない	自分の年齢が 若いので 考えていない	後継者はいない・ 考えていない	経営形態が後継者 と関係がない (株式会社等)
全体	607	30.3 (184)	17.6 (107)	11.9 (72)	23.6 (143)	16.6 (101)
1～19頭	52	5.8 (3)	11.5 (6)	5.8 (3)	46.2 (24)	30.8 (16)
20～49頭	76	13.2 (10)	17.1 (13)	2.6 (2)	52.6 (40)	14.5 (11)
50～99頭	96	32.3 (31)	15.6 (15)	12.5 (12)	35.4 (34)	4.2 (4)
100～199頭	109	41.3 (45)	20.2 (22)	15.6 (17)	20.2 (22)	2.8 (3)
200～499頭	140	40.7 (57)	20.7 (29)	13.6 (19)	12.1 (17)	12.9 (18)
500～999頭	67	22.4 (15)	16.4 (11)	13.4 (9)	6.0 (4)	41.8 (28)
1,000頭～	67	34.3 (23)	16.4 (11)	14.9 (10)	3.0 (2)	31.3 (21)

(経営体数)

(% (経営体数))

■5.飼養頭数について

□子取り用雌豚

- ① 子取り用雌豚の全頭数は280,434頭で、前年の281,584頭から1,150頭減となっている。そのうち「純粋種」は45,291頭(16.2%)で、昨年度の11.2%から飼養割合が増加している。
- ② 「純粋種」で最も頭数が多かったのは「多産系母豚(TOPIGS・ダンブレッド等)」の12,455頭で、「純粋種」中の27.5%、全子取り用雌豚中の4.4%となっている。

[表11] 子取り用雌豚飼養頭数：地域別 (N=625)

	N =	総頭数	地域割合	純粋種	交雑種
全国	625	280,434	100.0	16.2 (45,291)	83.8 (235,143)
北海道・東北	161	88,002	31.4	18.3 (16,107)	81.7 (71,895)
関東	181	81,935	29.2	8.5 (6,953)	91.5 (74,982)
北陸	25	6,860	2.4	25.8 (1,772)	74.2 (5,088)
東海	53	13,192	4.7	27.5 (3,627)	72.5 (9,565)
近畿	10	1,022	0.4	7.6 (78)	92.4 (944)
中国・四国	43	12,389	4.4	4.8 (591)	95.2 (11,798)
九州・沖縄	152	77,034	27.5	21.0 (16,163)	79.0 (60,871)

(経営体数) (頭数) (%) (頭数) (%) (頭数)

[表12] 子取り用雌豚飼養頭数・品種別：地域別 (N=625)

	総頭数	純粋種							
		純血種計	ランドレース/L	大ヨークシャー/W	中ヨークシャー/Y	パークシャー/B	デュロック/D	多産系母豚	その他
全国	280,434	45,291	9,932	7,985	62	8,568	1,632	12,455	4,657
北海道・東北	88,002	16,107	4,252	2,048	1	552	506	5,336	3,412
関東	81,935	6,953	1,431	1,997	56	97	406	2,487	479
北陸	6,860	1,772	243	278	1	6	106	1,078	60
東海	13,192	3,627	285	438	1	47	174	2,628	54
近畿	1,022	78	9	49	0	15	5	0	0
中国・四国	12,389	591	55	76	3	150	56	17	234
九州・沖縄	77,034	16,163	3,657	3,099	0	7,701	379	909	418

(頭) (頭)

	交雑種計	交雑種						
		LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド
全国	235,143	67,680	30,483	50,983	413	395	29,578	55,611
北海道・東北	71,895	19,709	4,080	10,391	0	22	7,280	30,413
関東	74,982	16,486	12,099	26,392	413	270	11,998	7,324
北陸	5,088	753	841	92	0	0	22	3,380
東海	9,565	5,016	1,838	664	0	0	926	1,121
近畿	944	113	568	85	0	0	128	50
中国・四国	11,798	4,546	1,072	1,173	0	14	2,335	2,658
九州・沖縄	60,871	21,057	9,985	12,186	0	89	6,889	10,665

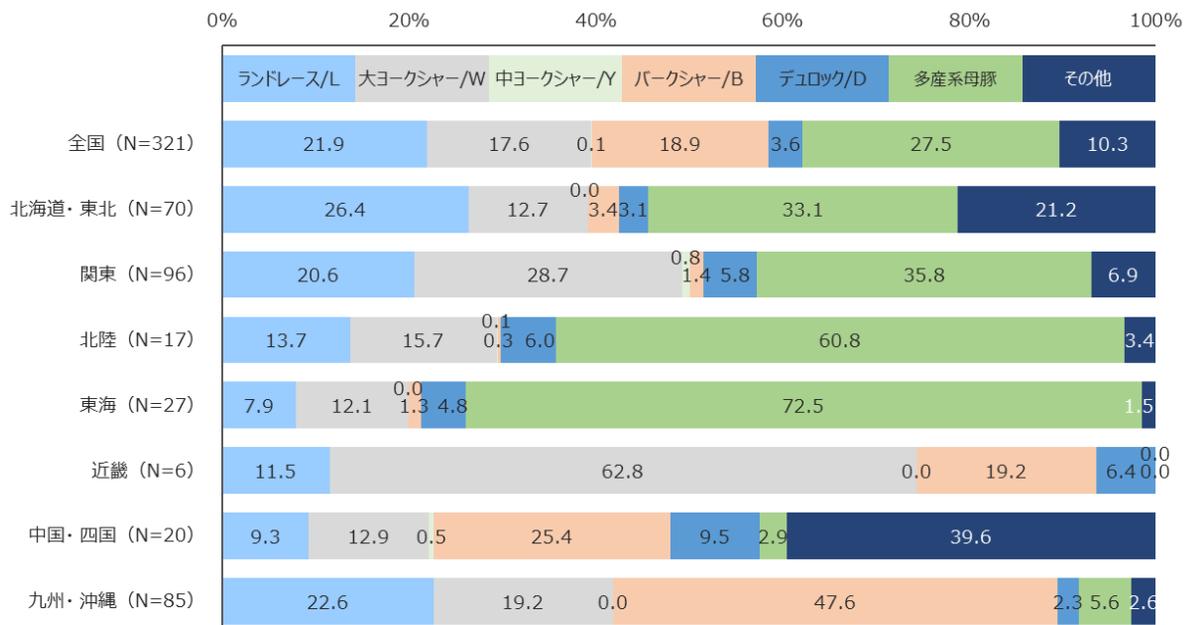
(頭) (頭)

[表13] 子取り用雌豚頭数：複数回答可・全国 (N=625)

		合計	小計	純粋種							
				ランドレス /L	大ヨークシャー /W	中ヨークシャー /Y	パークシャー /B	デュロック /D	多産系母豚	その他	
全国回答数 (複数回答可)	経営体数	1,124	538	149	115	11	67	113	52	31	
	回答割合		-	23.8	18.4	1.8	10.7	18.1	8.3	5.0	(%)
	平均頭数		96.2	66.7	69.4	5.6	127.9	14.4	239.5	150.2	(頭)
全国頭数	子取り用雌豚	280,434	45,291	9,932	7,985	62	8,568	1,632	12,455	4,657	(頭)
	頭数割合		100.0	21.9	17.6	0.1	18.9	3.6	27.5	10.3	(%)
	全頭数割合	100.0	16.2	3.5	2.9	0.0	3.1	0.6	4.4	1.7	(%)

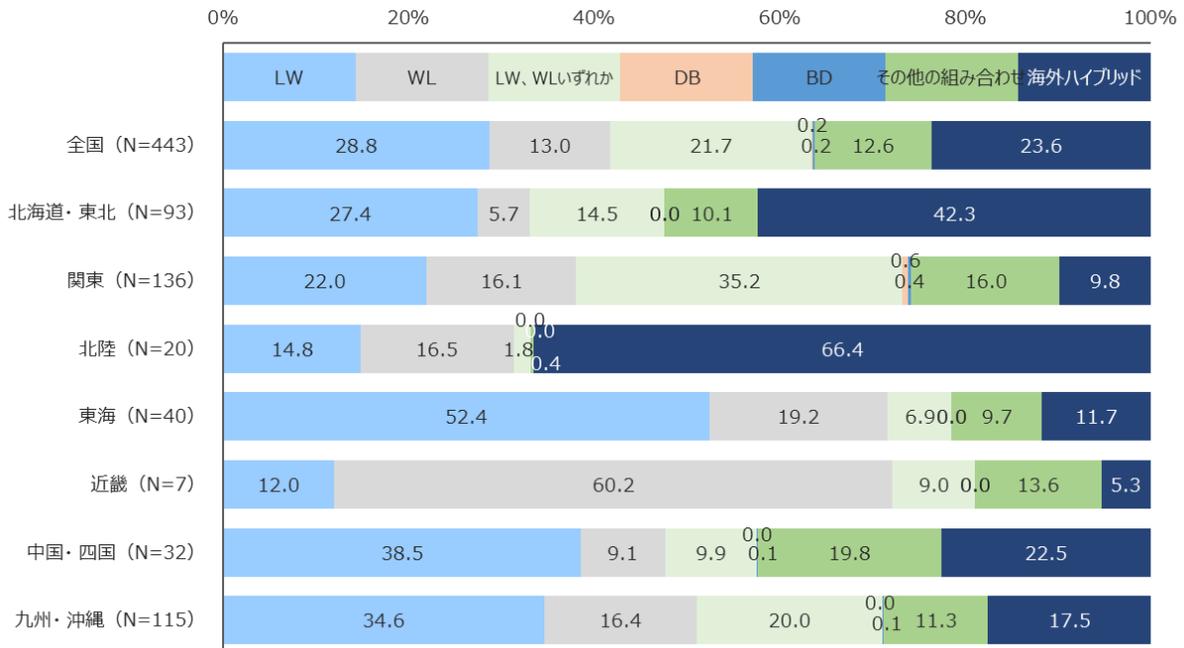
		小計	交雑種								
			LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド		
全国回答数 (複数回答可)	経営体数	586	246	77	83	1	6	64	109		
	回答割合		39.4	12.3	13.3	0.2	1.0	10.2	17.4	(%)	
	平均頭数		390.9	275.1	395.9	614.3	413.0	65.8	462.2	510.2	(頭)
全国頭数	子取り用雌豚	235,143	67,680	30,483	50,983	413	395	29,578	55,611	(頭)	
	頭数割合		100.0	28.8	13.0	21.7	0.2	0.2	12.6	23.7	(%)
	全頭数割合	83.8	24.1	10.9	18.2	0.2	0.1	10.6	19.8	(%)	

[図8] 子取り用雌豚【純粋種】の飼養頭数割合：複数回答可・地域別 (N=321)



- ③ 交雑種で最も飼養頭数が多いのは「LW」で67,680頭、次いで「海外ハイブリッド」で55,611頭だった。
- ④ 海外ハイブリッドの品種で回答が多かったのはハイポー(40農場)、ケンボロー(38農場)、ピクア(8農場)、チョイス・ジェネティクス(7農場)などであった。
- ⑤ 「海外ハイブリッド」は、「北陸」で多くみられ66.4%、「北海道・東北」も42.3%といった高い割合で海外ハイブリッドを利用した生産を行っている。

[図9] 子取り用雌豚【交雑種】の飼養頭数割合：地域別 (N=443)



[表14] 子取り用雌豚規模割合：地域別 (N=625)

	N=	1~19頭	20~49頭	50~99頭	100~199頭	200~499頭	500~999頭	1,000頭~
全国	625	8.8	12.6	15.7	17.9	23.0	10.9	11.0
北海道・東北	161	8.1	11.2	8.7	12.4	26.7	18.6	14.3
関東	181	7.7	11.6	18.2	24.3	22.1	5.5	10.5
北陸	25	0.0	24.0	24.0	16.0	24.0	4.0	8.0
東海	53	11.3	15.1	20.8	20.8	17.0	11.3	3.8
近畿	10	30.0	20.0	0.0	40.0	0.0	10.0	0.0
中国・四国	43	14.0	9.3	23.3	7.0	27.9	14.0	4.7
九州・沖縄	152	8.6	13.2	15.8	17.1	22.4	9.2	13.8

(経営体数) (%)

□種雄豚

- ① 種雄豚の全体頭数は8,046頭で、前年の9,547頭から約15.7%減となっている。「純粋種」の総頭数は6,152頭、最も多く利用されているのは「デュロック」の4,134頭で純粋種の67.2%である。
- ② 地域別では、種雄豚が多いのは「北海道・東北」2,508頭、「九州・沖縄」2,217頭、「関東」2,056頭の順で、この地域で全体の84.3%を占めている。
- ③ 主な海外ハイブリッドの品種としては、ハイポー（35農場）、ケンボロー（29農場）、デカルブ（5農場）、チョイス・ジェネティクス（3農場）となっている。

[表15] 種雄豚飼養頭数：地域別 (N=568)

	N=	総頭数	地域割合	純粋種	交雑種
全国	568	8,046	100.0	76.5 (6,152)	23.5 (1,894)
北海道・東北	140	2,508	24.6	64.4 (1,616)	35.6 (892)
関東	164	2,056	28.9	83.4 (1,714)	16.6 (342)
北陸	24	267	4.2	96.3 (257)	3.7 (10)
東海	48	500	8.5	89.4 (447)	10.6 (53)
近畿	8	42	1.4	88.1 (37)	11.9 (5)
中国・四国	42	456	7.4	60.3 (275)	39.7 (181)
九州・沖縄	142	2,217	25.0	81.5 (1,806)	18.5 (411)

(経営体数) (頭) (%) (% (頭数))

[表16] 種雄豚飼養頭数・品種：地域別 (N=568)

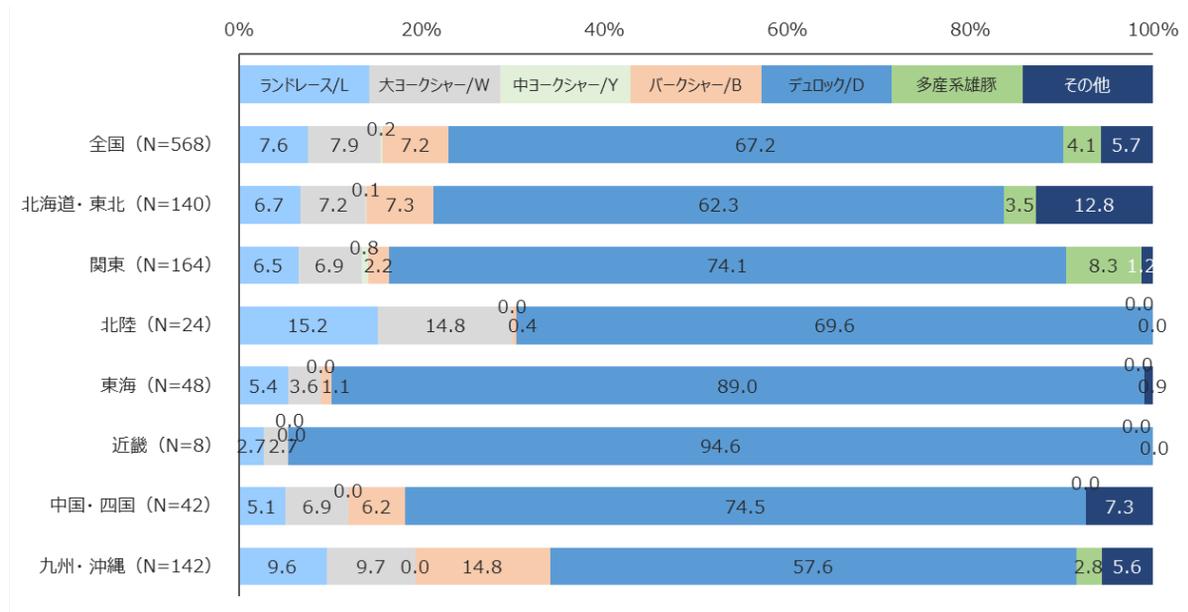
	総頭数	純粋種計	純粋種						
			ランドレース /L	大ヨークシャー /W	中ヨークシャー /Y	パークシャー /B	デュロック /D	多産系雄豚	その他
全国	8,046	6,152	470	485	15	446	4,134	250	352
北海道・東北	2,508	1,616	108	117	2	118	1,007	57	207
関東	2,056	1,714	111	119	13	38	1,270	143	20
北陸	267	257	39	38	0	1	179	0	0
東海	500	447	24	16	0	5	398	0	4
近畿	42	37	1	1	0	0	35	0	0
中国・四国	456	275	14	19	0	17	205	0	20
九州・沖縄	2,217	1,806	173	175	0	267	1,040	50	101

(頭)

	交雑種計	交雑種						
		LW	WL	LW、WL いずれか	DB	BD	その他の 組み合わせ	海外 ハイブリッド
全国	1,894	175	317	123	3	309	86	881
北海道・東北	892	63	250	19	0	27	16	517
関東	342	29	45	84	3	114	23	44
北陸	10	3	0	0	0	3	4	0
東海	53	4	7	0	0	3	0	39
近畿	5	0	0	0	0	5	0	0
中国・四国	181	10	11	20	0	57	4	79
九州・沖縄	411	66	4	0	0	100	39	202

(頭)

【図10】種雄豚【純粋種】飼養頭数割合：地域 (N=568)



□全体頭数

- ① 令和元年度の本調査における豚の飼養頭数は、「子取り用雌豚」が280,434頭、「種雄豚」8,046頭、「育成豚」(繁殖予定で未交配の雄または雌豚)46,535頭、「子豚」1,326,407頭、「肥育豚」1,764,826頭で、全飼養頭数で3,426,248頭となっている。
- ② 平均飼養頭数は、「子取り用雌豚」で448.7頭、全体の飼養頭数で4,880.7頭となっている。

【表17】飼養頭数：全国 (N=702)

全国	飼養頭数合計	子取り用雌豚*	種雄豚*	育成豚**	子豚***	肥育豚****	
回答経営体数	702	625	568	525	578	635	(経営体数)
頭数合計	3,426,248	280,434	8,046	46,535	1,326,407	1,764,826	
1経営当たり平均頭数	4,880.7	448.7	14.2	88.6	2,294.8	2,779.3	(頭数)

* 育成豚を除く ** 繁殖利用予定で未交配の雌または雄

*** 子豚舎・子豚豚房で飼養しているもの+哺乳中のもの **** 肥育舎・肥育豚房で飼養しているもの

■6.肉豚の出荷状況（平成30年8月～令和元年7月）

□総出荷頭数

- ① 総出荷頭数は、肉豚出荷のほか、繁殖豚（子取り用雌豚・雄豚）の廃用、子豚出荷（販売などのほか、同一経営の農場間移動も含む）、種豚候補豚の出荷など、農場から外部に出荷したすべての豚の頭数を調べたものである。
- ② 肉豚を出荷している経営体は642で、年間（平成30年8月～令和元年7月）の肉豚出荷頭数は5,594,442頭、1経営体当たり平均8,714.1頭である。
- ③ 子豚を出荷している経営体は234経営体で、年間（平成30年8月～令和元年7月）の総出荷頭数は468,203頭で、1経営体当たり平均2,000.9頭である。

【表18】 導入頭数：全国（N=561）

全国	子取り用雌豚		肥育	
	純粋種豚導入頭数	子取り用雌豚（PS） 導入頭数	肥育豚導入頭数	
回答経営体数	352	379	239	(経営体数)
頭数合計	9,928	53,281	814,066	
1経営体当たり平均頭数	28.2	140.6	3406.1	(頭数)

【表19】 総出荷頭数：全国（N=667）

全国	年間肉豚出荷頭数	種豚候補豚（純粋種・ F1等）の販売頭数	年間肉用子豚 出荷頭数（販売）	繁殖豚（雄、雌） 年間廃用頭数	
回答経営体数	642	200	234	508	(経営体数)
頭数合計	5,594,442	78,449	468,203	106,445	
1経営体当たり平均頭数	8,714.1	392.3	2,000.9	209.5	(頭数)

□肉豚出荷頭数

- ① 年間肉豚出荷頭数を出荷規模別で見ると、「4,000～9,999頭」の経営体数割合（回答割合）が20.6%と最も高く、次いで「2,000～3,999頭」が19.9%、「1,000～1,999頭」が15.1%となっている。
- ① 一方、頭数割合では、「20,000頭以上」が61.0%、「4,000～9,999頭」が15.1%、「10,000～19,999頭」が14.0%で、この3階層の経営体（40.7%）で出荷頭数の90.1%を占めている。

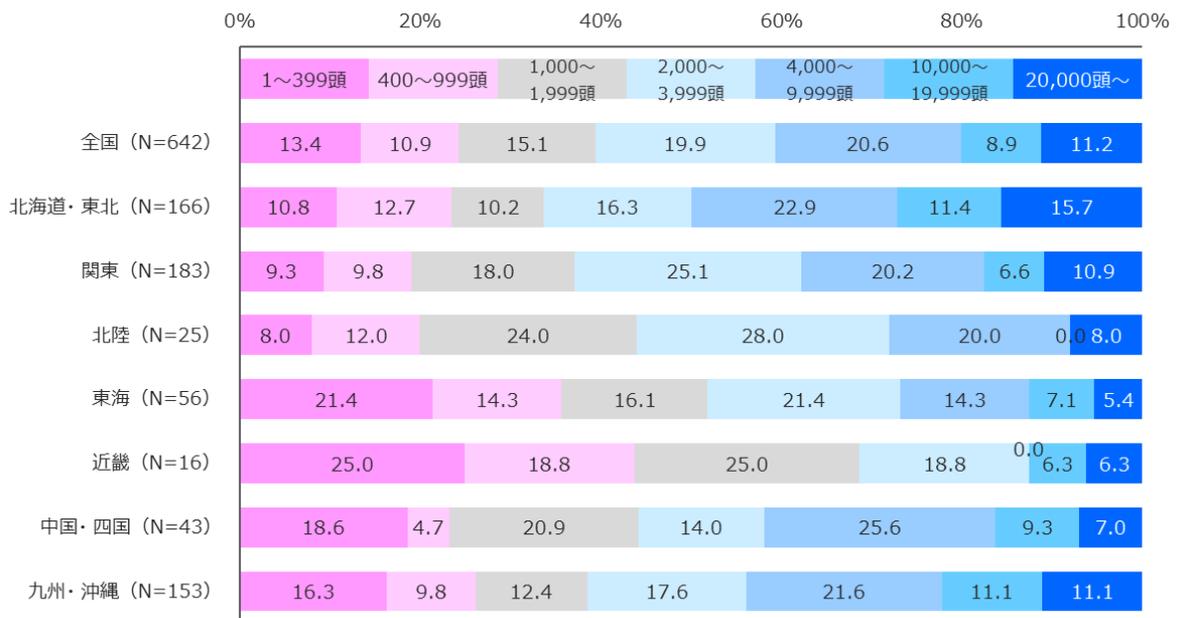
【表20】 年間肉豚出荷頭数：全国（N=642）

	合計	1～399頭	400～ 999頭	1,000～ 1,999頭	2,000～ 3,999頭	4,000～ 9,999頭	10,000～ 19,999頭	20,000頭～
回答経営体数	642	13.4 (86)	10.9 (70)	15.1 (97)	19.9 (128)	20.6 (132)	8.9 (57)	11.2 (72)
全頭数	5,594,442	0.2 (11,951)	0.9 (48,136)	2.5 (138,120)	6.3 (353,151)	15.1 (846,376)	14.0 (785,772)	61.0 (3,410,936)

上段：（%（経営体数））

下段：（%（頭数））

【図11】肉豚出荷規模別経営体割合：地域別 (N=642)



□肉豚出荷日齢

- ① 肉豚の平均出荷時日齢は184.0日で、前年の184.3日から約0.3日短くなっている。出荷時の生体重は114.2kgで前年の114.9kgから0.7kg減、平均枝肉重量は75.0kgで前年の75.2kgより0.2kg減となっている。1日平均増体量は、620.7gで前年の649.1gから28.4g減っており、発育は早くなっているが、歩留まりには大きな変化はないことがわかる。
- ② 地域別でみると、出荷日齢では「近畿」の206.2日、「九州・沖縄」の195.1日が長い。「九州・沖縄」では主産地である鹿児島県において飼養日数の長いバークシャーの頭数が多いことが影響していると思われる。
- ③ 出荷日齢が最も短いのは「北陸」の172.1日、1日平均増体量が最も大きいのは「北陸」の661.8gだった。出荷時の生体重が最も大きいのは「近畿」の118.6kgで、枝肉重量が最も大きいのも「近畿」の79.3kgである。

【表21】肉豚出荷日齢：地域別 (N=586)

	肉豚出荷日齢平均*	肉豚出荷生体重平均	肉豚1頭当たり 枝肉重量平均	1日平均増体重**
全国	184.0	114.2	75.0	620.7
北海道・東北	175.5	116.1	74.8	661.5
関東	183.5	113.5	75.8	618.5
北陸	172.1	113.9	74.7	661.8
東海	179.7	114.9	75.6	639.4
近畿	206.2	118.6	79.3	575.2
中国・四国	181.1	113.3	75.1	625.6
九州・沖縄	195.1	112.9	73.7	578.7

* 生後日数 ** 出荷生体重÷出荷日齢

■7.繁殖・肥育等の成績（2018年8月1日～2019年7月31日）

□繁殖成績

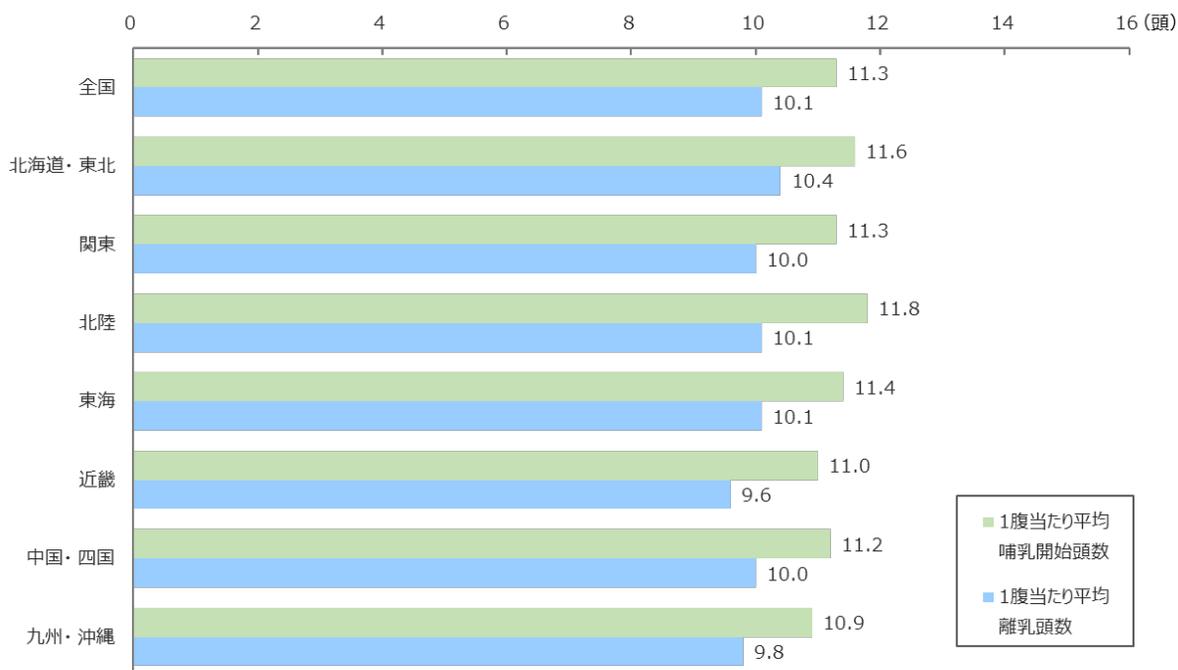
- ① 1腹当たりの「平均哺乳開始頭数」は11.3頭で前年度から0.2頭増、「平均離乳頭数」は10.1頭で前年比＋0.1頭、「平均育成率」は89.3%で前年より0.3%減と、繁殖成績はほぼ横ばいだった。また、「平均受胎率」は88.3%で前年比1.4%増、「平均分娩回数」は2.2回で前年と同じとなった。
- ② 「年間平均種付け頭数」は「九州・沖縄」の1478.8頭、「年間平均総受胎頭数」も「九州・沖縄」の1193.5頭、「年間平均総産子数」は「関東」の15719.1頭が最も多い。

【表22】 繁殖成績：地域別 (N=556)

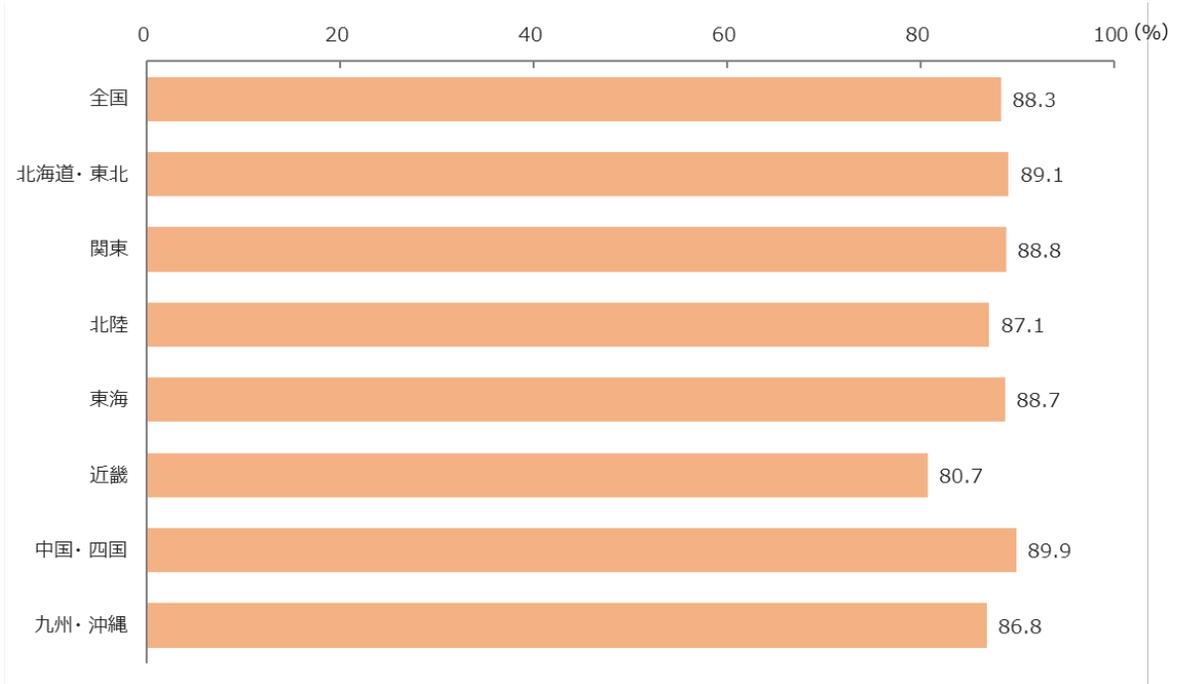
	1腹当たり平均 哺乳開始頭数	1腹当たり平均 離乳頭数	平均育成率	年間平均 種付け頭数	年間平均 総受胎頭数	平均受胎率	年間平均 総産子数	年間平均 分娩回数
全国	11.3	10.1	89.3	1232.7	942.7	88.3	13573.2	2.2
北海道・東北	11.6	10.2	89.7	1329.8	1147.3	89.1	13483.8	2.3
関東	11.3	10.3	89.2	1243.9	752.2	88.8	15719.1	2.2
北陸	11.8	10.4	86.2	768.6	430.7	87.1	7909.2	2.2
東海	11.4	9.8	88.5	810.2	668.0	88.7	8427.8	2.3
近畿	11.0	9.4	88.0	338.9	315.8	80.7	4257.6	2.2
中国・四国	11.2	9.8	89.8	873.4	774.8	89.9	9353.7	2.2
九州・沖縄	10.9	9.6	89.6	1478.8	1193.5	86.8	15402.7	2.2

(頭) (頭) (%) (頭) (頭) (%) (頭) (回)

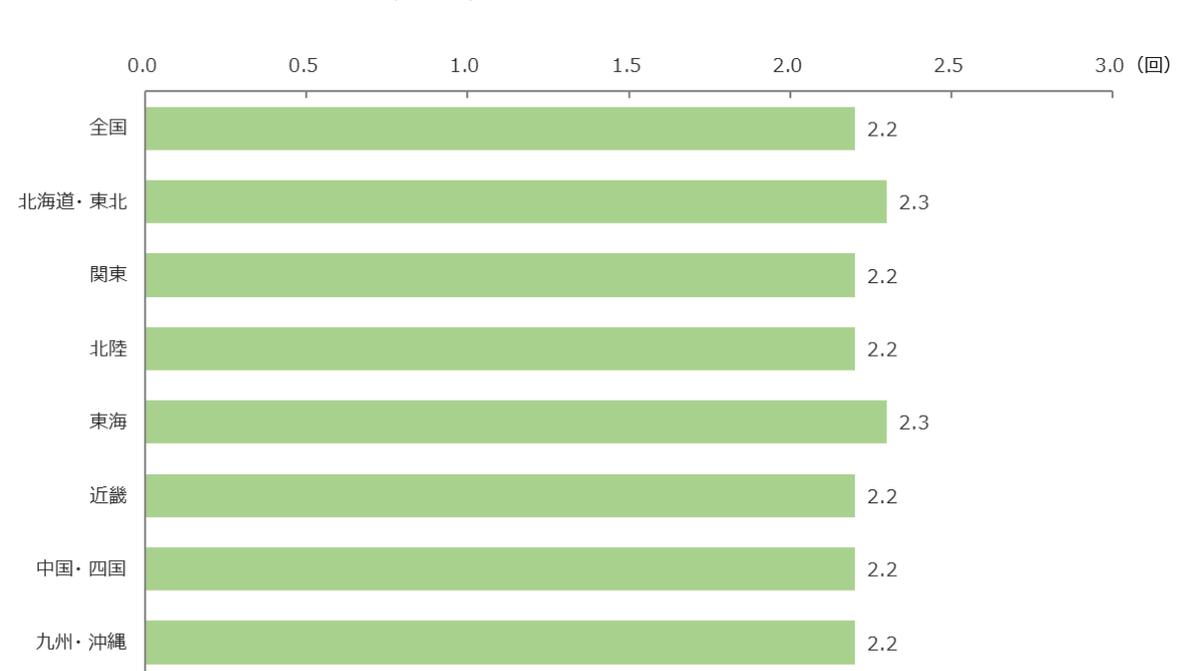
【図12】 1腹当たりの平均哺乳頭数 (N=537) および 平均離乳頭数 (N=530)



[図13] 平均受胎率：地域別 (N=392)



[図14] 年間平均分娩回数：地域別 (N=505)



□格付・上物率・相対取引について

- ① 「格付している」経営体は90.9% で、そのうち「日格協(日本食肉格付協会)の格付」は79.1%、「自主格付」は20.9%である。
- ② 上物率は「九州・沖縄」が最も高く63.3%だった。
- ③ 契約枝重下限の平均枝重は66.6Kg、契約枝重上限では83.0Kgであった。

[表23] 格付実施率：複数回答可・地域別 (N=628)

	N=	日格協の格付け	日格協の格付け以外 (バッカー・ブランドヒ・ 協議会などの自主的な格付)	格付していない (生体販売など)	格付方法を 把握していない
全国	628	79.1	20.9	7.2	1.9
北海道・東北	161	89.4	12.4	4.3	0.6
関東	183	66.1	35.0	11.5	2.2
北陸	22	95.5	4.5	4.5	0.0
東海	53	79.2	18.9	3.8	5.7
近畿	16	87.5	6.3	6.3	0.0
中国・四国	45	88.9	8.9	4.4	2.2
九州・沖縄	148	77.7	20.9	7.4	2.0

(経営体数) (%)

[表24] 平均上物率：地域別 (N=135)

	N=	年間平均上物率 (格付している豚)
全国	135	49.1
北海道・東北	6	47.1
関東	42	50.2
北陸	16	39.9
東海	25	41.7
近畿	9	35.9
中国・四国	22	58.3
九州・沖縄	15	63.3

(経営体数) (%)

[表25] 相対取引実施状況：全国 (N=583)

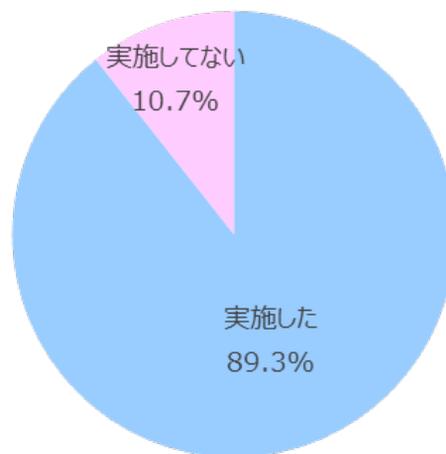
N=583	実施している		実施していない	
	契約枝重下限	契約枝重上限		
回答経営体数	229		354	(経営体数)
割合	39.3		60.7	(%)
平均枝重	66.6	83.0		(kg)
最高	75.0	110.0		(kg)
最低	50.0	75.0		(kg)

■8.事故率低減のための取組について

□事故率低減のための取組について

- ① 事故率低減のために「対策を実施した」農場は89.3%。約9割が何らかの対策を行っている。
- ② 対策方法としては「ワクチネーションプログラムの適切な見直し・変更」の59.4%が最も多く、「農場の衛生ゾーンを明確化、長靴の履き替え・消毒の徹底」58.0%、「管理獣医師等による定期的指導を受けている」51.8%の順。この3方法が50%を超過しており、多くの農場で採用されている対策となっている。
- ③ 「その他」では「PRRSの対策をとっている」という回答があった。

【図15】 事故率低減対策の実施有無：全国 (N=704)



【表26】 事故率低減対策の実施割合：複数回答可・地域別 (N=704)

	N=	対策を実施した										特に 対策は していない
		実施した 計	豚舎の新 築、改築	スリープ ン・ツーン 等生産シス テム導入 オールイン ・オールアウト を实践	HACCP、 GAP等の 導入、問題 の明確化	管理獣医 師等による 定期的指 導を受けて いる	疾病予防 対策マニ アルの作 成、定期的 な見直し	スノコ裏、 ピット下な どを徹底的 に消毒	農場の衛 生ゾーンを 明確化、長 靴の履き替 え・消毒の 徹底	ワクチネー ションプロ グラムの 適切な見 直し 変更	その他	
全国	704	89.3	29.4	12.2	12.8	51.8	24.6	13.2	58.0	59.4	3.8	10.7
北海道・東北	183	91.3	30.6	15.8	15.8	56.3	32.2	14.2	65.0	61.7	4.4	8.7
関東	198	89.9	23.7	11.6	11.6	50.5	19.2	10.6	56.6	58.6	5.6	10.1
北陸	26	92.3	23.1	11.5	11.5	73.1	26.9	19.2	76.9	80.8	7.7	7.7
東海	58	82.8	37.9	10.3	13.8	43.1	22.4	8.6	60.3	39.7	1.7	17.2
近畿	17	58.8	5.9	0.0	5.9	23.5	11.8	11.8	35.3	29.4	11.8	41.2
中国・四国	49	87.8	26.5	4.1	12.2	32.7	40.8	18.4	46.9	63.3	0.0	12.2
九州・沖縄	173	91.9	35.8	13.3	11.6	56.6	19.7	14.5	53.8	63.0	1.7	8.1

(経営体数)

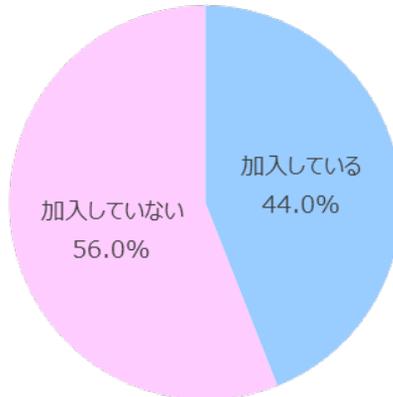
(%)

■9.家畜共済の加入状況について

□家畜共済の加入状況と希望する家畜共済について

- ① 家畜共済に加入していない理由としては「掛金に対して支払額が見合わない」が33.7%で最も高い。「その他」では「公的機関・学校法人」12件、「民間で加入」7件、「不要」5件、「委託農場」5件、「規模が小さい」4件といった声がきかれた。
- ② 希望する共済として「学校や公的機関でも加入出来るシステムが欲しい」という回答があった。

【図16】 農業共済加入の有無：全国 (N=672)



【表27】 農業共済の加入割合：複数回答可・地域別 (N=672)

	N=	農業共済に加入している計 (%)	農業共済に加入していない計 (%)	N=	加入していない理由			
					共済掛金が高い (%)	加入方法がわかりにくい (%)	掛金に対して支払額が見合わない (%)	その他 (%)
全国	672	44.0	56.0	323	26.6	12.7	33.7	26.9
北海道・東北	174	38.5	61.5	90	25.6	16.7	31.1	26.7
関東	187	50.8	49.2	80	26.3	11.3	31.3	31.3
北陸	26	69.2	30.8	5	20.0	0.0	20.0	60.0
東海	55	43.6	56.4	29	24.1	27.6	24.1	24.1
近畿	17	23.5	76.5	11	0.0	9.1	63.6	27.3
中国・四国	47	38.3	61.7	26	38.5	3.8	38.5	19.2
九州・沖縄	166	42.2	57.8	82	29.3	8.5	37.8	24.4

【表28】 希望する家畜共済の内容：複数回答可・地域別 (N=461)

	N=	加入方法、支払額のわかりやすさ (%)	共済掛金を低くする (%)	哺乳子豚を共済対象に含める (%)	補償期間の延長 (%)	その他 (%)
全国	461	40.8	56.8	11.5	5.0	7.6
北海道・東北	126	38.1	61.9	8.7	6.3	3.2
関東	127	48.0	48.8	10.2	3.9	7.1
北陸	14	42.9	57.1	28.6	0.0	7.1
東海	37	48.6	40.5	13.5	8.1	8.1
近畿	11	36.4	54.5	9.1	0.0	27.3
中国・四国	39	25.6	71.8	10.3	0.0	12.8
九州・沖縄	107	38.3	60.7	14.0	6.5	9.3

■10.交配について

□交配の回数

- ① 自然交配での回数は「2回」が24.9%、「1回」が4.2%の順。人工授精では「2回」23.8%、次いで「3回」19.1%、自然交配と人工授精の併用では「自然交配1回+人工授精1回」が10.5%と高くなっている。
- ② 地域別では人工授精「2回」が「北海道・東北」で高く、人工授精「3回」で「九州・沖縄」が高い。

□交配方法

- ① 自然交配のみが33.1%、人工授精のみが43.5%、自然交配と人工授精の併用が20.0%となっている。
- ② 地域別では人工授精のみ実施が「北海道・東北」で53.1%と目立って高い。
- ③ 人工授精における深部注入の実施は「全て深部注入」30.4%、「深部注入と普通の人工授精を併用」20.0%、と合わせて50.4%と半数の農場で実施している。
- ④ [図18]地域別では、全て深部注入を行っているのは「近畿」(注:回答の農場数が少ない)が44.4%と高く、次いで「中国・四国」35.5%、「九州・沖縄」35.1%の順。逆に深部注入を行っていないのは「北陸」で13.6%と高い傾向がある。
- ⑤ [表27]子取り用雌豚飼養規模別では、全て深部注入を行っているのは「100～199頭」が42.9%と高く、逆に深部注入を行っていないのは「20～49頭」54.8%、「50～99頭」50.9%が目立って高い。

【表29】 交配実施回数と方法：地域別 (N=618)

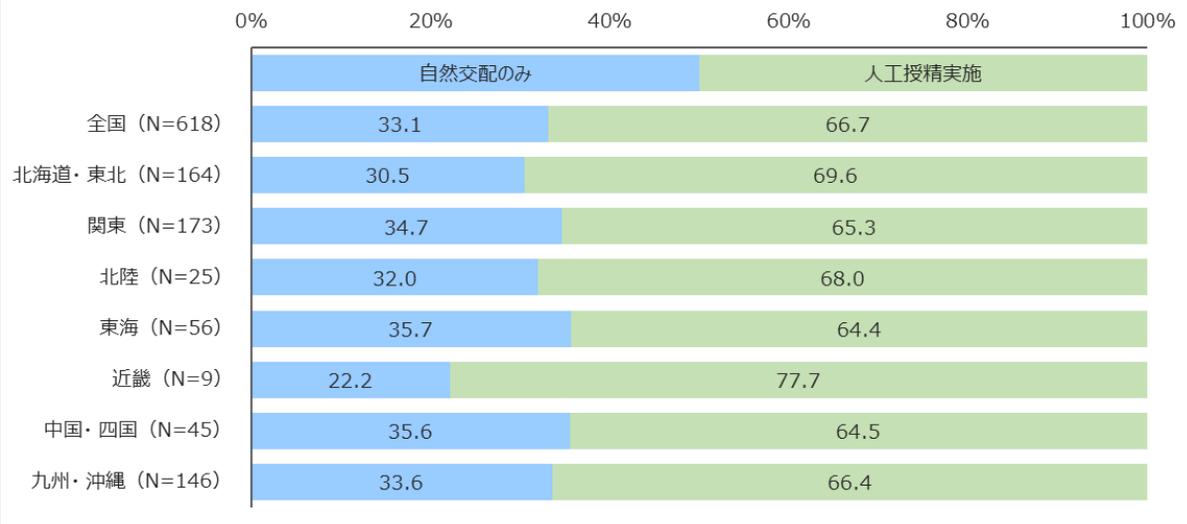
	N=	自然交配			人工授精			自然交配 1回 + 人工授精 1回	自然交配 1回 + 人工授精 2回	自然交配 2回 + 人工授精 1回	その他
		1回	2回	3回	1回	2回	3回				
全国	618	4.2	24.9	4.0	0.6	23.8	19.1	10.5	7.9	1.6	3.2
北海道・東北	164	2.4	22.6	5.5	0.6	34.8	17.7	7.9	4.9	0.0	3.7
関東	173	6.4	27.7	0.6	0.6	25.4	13.3	13.3	8.1	2.3	2.3
北陸	25	8.0	24.0	0.0	0.0	20.0	12.0	16.0	8.0	0.0	12.0
東海	56	7.1	26.8	1.8	0.0	17.9	14.3	16.1	14.3	0.0	1.8
近畿	9	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1
中国・四国	45	0.0	26.7	8.9	2.2	15.6	13.3	4.4	15.6	6.7	6.7
九州・沖縄	146	2.7	24.7	6.2	0.7	16.4	30.8	8.2	6.8	2.1	1.4

(経営体数) (%)

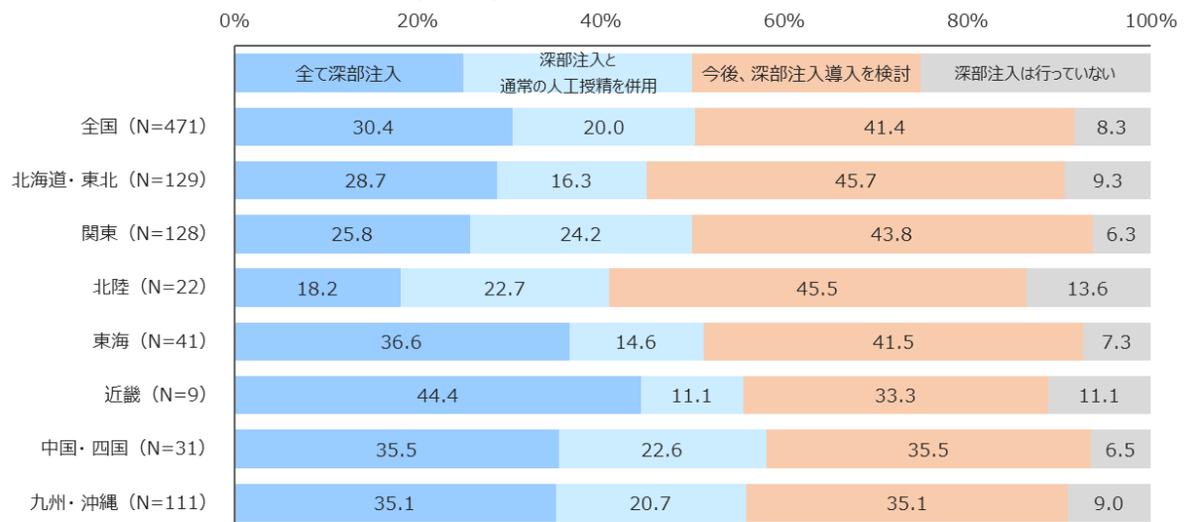
	N=	自然交配のみ	人工授精のみ	自然交配と 人工授精の併用	その他
全国	618	33.1	43.5	20.0	3.2
北海道・東北	164	30.5	53.1	12.8	3.7
関東	173	34.7	39.3	23.7	2.3
北陸	25	32.0	32.0	24.0	12.0
東海	56	35.7	32.2	30.4	1.8
近畿	9	22.2	44.4	22.2	11.1
中国・四国	45	35.6	31.1	26.7	6.7
九州・沖縄	146	33.6	47.9	17.1	1.4

(経営体数) (%)

【図17】人工授精の実施状況：地域別 (N=618)



【図18】深部注入の実施状況：地域別 (N=471)



【表30】人工授精における深部注入の実施内容：子取り用雌豚飼養規模別(N=446)

	N=	全て深部注入で行っている (%)	深部注入と普通の人工授精を併用している (%)	深部注入は行っていない (%)	深部注入は行っていないが、今後検討したい (%)
全体	446	30.0	19.5	41.7	8.7
1～19頭	27	25.9	11.1	44.4	18.5
20～49頭	31	29.0	3.2	54.8	12.9
50～99頭	55	27.3	9.1	50.9	12.7
100～199頭	77	42.9	10.4	42.9	3.9
200～499頭	124	25.0	22.6	41.9	10.5
500～999頭	65	33.8	26.2	36.9	3.1
1,000頭～	67	25.4	37.3	29.9	7.5

(経営体数) (%)

□精液

- ① 精液の入手方法は、「全て外部導入」49.7%と高く、次いで「全て自家採精」が31.8%となっている。
- ② 「子取り用雌豚規模別でみると」全て自家採精が「1,000頭～」で52.2%と最も高く、「全て外部導入」は「50～99頭」で72.2%と最も高かった。

[表31] 精液の導入方法：子取り用雌豚飼養規模別 (N=447)

	N=	全て自家採精	全て外部導入 (公的試験場・AIセンター)	自家採精と 外部導入を併用
全体	447	31.8	49.7	18.6
1～19頭	27	11.1	77.8	11.1
20～49頭	31	12.9	67.7	19.4
50～99頭	54	16.7	72.2	11.1
100～199頭	78	21.8	60.3	17.9
200～499頭	124	32.3	46.8	21.0
500～999頭	66	51.5	28.8	19.7
1,000頭～	67	52.2	25.4	22.4

(経営体数)

(%)

□人工授精について

- ① 年代別で人工授精を実施している中でも、「割合を維持したい」65.8%、「割合を増やしたい」12.8%、「割合を縮小したい」0.6%と現状維持か増やしたい割合が約8割となっている。
- ② [表30]子取り用雌豚飼養規模別では「200頭以上」の農場でいずれも9割以上で実施している。逆に頭数規模の少ない農場では導入していない傾向が高い。
- ③ 人工授精をしない上位理由は、「不要」9件、「効率が悪い」5件、「コストが高い」4件などが挙げられた。

[表32] 人工授精実施経営体の今後の意向：年代別 (N=486)

	N=	人工授精を実施している				
		実施している計	割合を維持したい	割合を増やしたい	割合を縮小したい	やめたい
全年代	486	385 (79.2)	65.8	12.8	0.6	0.0
20～30才代	42	35 (83.3)	69.0	14.3	0.0	0.0
40代	103	91 (88.3)	71.8	16.5	0.0	0.0
50代	102	81 (79.4)	68.6	8.8	2.0	0.0
60代	161	121 (75.1)	62.7	11.8	0.6	0.0
70代～	78	57 (73.1)	59.0	14.1	0.0	0.0

(経営体数)

(人 (%))

(%)

	N=	人工授精を実施していない			
		実施していない計	導入したい・する予定	導入を検討したい	導入しない
全年代	486	101 (20.8)	2.1	7.6	11.1
20～30才代	42	7 (16.6)	2.4	7.1	7.1
40代	103	12 (11.7)	0.0	4.9	6.8
50代	102	21 (20.6)	2.0	7.8	10.8
60代	161	40 (24.8)	3.7	6.8	14.3
70代～	78	21 (26.9)	1.3	12.8	12.8

(経営体数)

(人 (%))

(%)

[表33] 人工授精実施経営体の今後の意向：子取り用雌豚飼養規模別 (N=545)

	N=	人工授精を実施している				
		実施している計	割合を維持したい	割合を増やしたい	割合を縮小したい	やめたい
全体	545	436 (80.1)	65.0	14.3	0.6	0.2
1～19頭	40	24 (60.0)	52.5	2.5	5.0	0.0
20～49頭	58	32 (55.2)	48.3	6.9	0.0	0.0
50～99頭	82	51 (62.2)	52.4	9.8	0.0	0.0
100～199頭	99	76 (76.8)	56.6	20.2	0.0	0.0
200～499頭	132	121 (91.7)	69.7	21.2	0.8	0.0
500～999頭	66	65 (98.5)	80.3	16.7	0.0	1.5
1,000頭～	68	67 (98.5)	89.7	8.8	0.0	0.0

(経営体数) (経営体数 (%)) (%)

	N=	人工授精を実施していない			
		実施していない計	導入したい・する予定	導入を検討したい	導入しない
全体	545	109 (20.0)	2.4	7.7	9.9
1～19頭	40	16 (40.0)	2.5	15.0	22.5
20～49頭	58	26 (44.8)	3.4	12.1	29.3
50～99頭	82	31 (37.8)	7.3	12.2	18.3
100～199頭	99	23 (23.2)	1.0	12.1	10.1
200～499頭	132	11 (8.3)	1.5	4.5	2.3
500～999頭	66	1 (1.5)	1.5	0.0	0.0
1,000頭～	68	1 (1.5)	0.0	1.5	0.0

(経営体数) (経営体数 (%)) (%)

■11.飼料について

□飼料内容

- ① 飼料給与体系をみると、「市販飼料のみ」が82.5%と最も多く、次いで「市販配合飼料+自家配合飼料」が13.7%、「自家配合飼料のみ」が3.8%となっている。
- ② 地域別の割合をみると、「東海」「近畿」を除く地域で「市販飼料のみ」の割合が80%以上と高い。「北海道・東北」は88.6%と目立って高い。

[表34] 飼料給与の状況：地域別 (N=707)

	N=	市販配合飼料のみ*	市販配合飼料+ 自家配合飼料	自家配合飼料のみ**
全国	707	82.5	13.7	3.8
北海道・東北	184	88.6	8.7	2.7
関東	198	85.4	13.1	1.5
北陸	26	84.6	3.8	11.5
東海	59	69.5	28.8	1.7
近畿	15	33.3	46.7	20.0
中国・四国	49	83.7	8.2	8.2
九州・沖縄	176	80.7	14.8	4.5

(経営体数)

*配合割合等を指定してメーカーに配合させたものを含む

**丸粒トウモロコシ単味飼料やエコフィード等の飼料原料を調達して自ら配合・調整したもの

(%)

[表35] 飼料の給与と内容：地域別 (N=594)

	N=	A+B合計	A：配合飼料					
			配合飼料		エコフィード利用配合飼料		飼料用米利用配合飼料	
			合計数量	数量割合	合計数量	数量割合	合計数量	数量割合
全国	594	25179.4千	19214.4千	76.3	86.1千	0.3	4817.5千	19.1
北海道・東北	163	2928.4千	2083.4千	71.1	17.7千	0.6	815.3千	27.8
関東	157	13013.3千	8908.4千	68.5	12.3千	0.1	3982.7千	30.6
北陸	23	57.0千	41.1千	72.1	10.4千	18.2	1.1千	2.0
東海	49	482.4千	451.8千	93.6	0.3千	0.1	7.2千	1.5
近畿	16	894.4千	10.2千	1.1	2.5千	0.3	0.0千	0.0
中国・四国	45	110.5千	95.2千	86.2	3.0千	2.7	3.6千	3.3
九州・沖縄	141	7693.3千	7624.4千	99.1	39.9千	0.5	7.5千	0.1

(経営体数) (t) (t) (%) (t) (%) (t) (%)

	B：単味飼料									
	飼料用米		子実用トウモロコシ		エコフィード		食品残さ		その他	
	合計数量	数量割合	合計数量	数量割合	合計数量	数量割合	合計数量	数量割合	合計数量	数量割合
全国	11.8千	0.0	10.0千	0.0	1009.2千	4.0	17.8千	0.1	12.7千	0.1
北海道・東北	5.4千	0.2	0.0千	0.0	2.2千	0.1	0.1千	0.0	4.4千	0.1
関東	2.6千	0.0	0.1千	0.0	100.0千	0.8	2.3千	0.0	5.0千	0.0
北陸	2.3千	4.1	1.4千	2.4	0.5千	0.9	0.0千	0.0	0.2千	0.3
東海	0.2千	0.0	0.0千	0.0	17.1千	3.5	5.8千	1.2	0.0千	0.0
近畿	0.0千	0.0	0.0千	0.0	877.6千	98.1	4.0千	0.4	0.2千	0.0
中国・四国	0.8千	0.7	0.2千	0.1	2.7千	2.5	4.5千	4.0	0.5千	0.4
九州・沖縄	0.5千	0.0	8.4千	0.1	9.0千	0.1	1.2千	0.0	2.4千	0.0

(t) (%) (t) (%) (t) (%) (t) (%) (t) (%) (t) (%)

[表36] 飼料の給与内容（平均数量）：地域別（N=594）

	N=	配合飼料（平均数量）			単味飼料（平均数量）				
		配合飼料	エロフィード 利用配合 飼料	飼料用米 利用配合飼 料	飼料用米	子実用 トウモロコシ	エロフィード	食品残さ	その他
全国	594	34,871.9	1,284.8	67,852.4	235.5	384.2	17,104.7	386.6	316.3
北海道・東北	163	13,797.2	841.0	33,971.3	315.8	-	221.5	8.5	486.4
関東	157	59,389.1	724.6	159,309.4	232.7	11.6	5,557.4	187.7	454.4
北陸	23	2,285.8	5,177.3	376.0	330.3	1,383.0	174.7	-	190.0
東海	49	9,612.2	80.8	1,798.4	76.0	-	3,420.2	1,161.0	6.0
近畿	16	781.3	831.7	-	20.0	-	109,693.8	565.3	44.4
中国・四国	45	2,213.9	1,501.0	909.5	272.7	75.0	687.2	1,490.0	92.2
九州・沖縄	141	59,103.7	2,218.2	682.8	58.6	930.4	818.6	134.9	299.8

(経営体数)

(t)

- ④ その他の単味飼料では、「大豆(粕)」12件、「米糠」10件、「ふすま」10件、「大麦圧ペン」5件、「パン」4件などが挙げられた。

□飼料用米

- ① 飼料用米の今後の利用意向についてみると、「利用する・利用したい」が33.1%、「利用予定なし」が66.9%となっている。
- ② 地域別では「北陸」の利用者が45.0%と最も高く、一番低いのは「近畿」(注:回答の農場数が少ない)で0.0%となっている。
- ③ 飼料用米の平均買取価格は22.2円/kg、平均加工価格は16.3円/kgとなっている。
- ④ 飼料用米を加工委託した場合の加工費に関しては、「買取価格に含む」が48.1%、「買取価格に含まない」が51.9%となっている。
- ⑤ 輸送費については、「買取価格に含む」55.8%、「買取価格に含まない」44.2%となっている。
- ⑥ 輸送費負担の有無は、「輸送費を負担」65.8%、「輸送費を負担していない」34.2%となっている。

【表37】 飼料用米利用の意向：地域別 (N=390)

	N=	利用継続 拡大 (新規利用希望含む)		削減または中止 (利用予定なし含む)
		利用者	平均希望数量	
全国	390	129 (33.1)	625.1	66.9
北海道・東北	114	39 (34.2)	1251.5	65.8
関東	97	40 (41.2)	210.8	58.8
北陸	20	9 (45.0)	227.0	55.0
東海	36	13 (36.1)	32.8	63.9
近畿	8	0 (0.0)	-	100.0
中国・四国	32	11 (34.4)	503.0	65.6
九州・沖縄	83	17 (20.5)	213.9	79.5

(経営体数 (%)) (t) (%)

【表38】 飼料用米の平均買取価格：全国 (N=43)

	N=	飼料用米の 平均買取価格	N=	飼料用米の 平均加工価格
全国	43	22.2	13	16.3

(円/kg)

【表39】 飼料用米を加工委託した場合の加工費について：全国 (N=27)

	N=	買取価格に含む	買取価格に 含まない
全国	27	48.1	51.9

(%)

[表40] 飼料用米の輸送費について：全国 (N=52)

	N=	買取価格に含む	買取価格に 含まない
全国	52	55.8	44.2

(%)

[表41] 飼料用米の輸送費負担の有無：全国 (N=38)

	N=	輸送費を負担	輸送費を 負担していない
全国	38	65.8	34.2

(%)

□子実トウモロコシ

- ① 子実トウモロコシの利用状況は「利用している」6.6%、「利用していない」93.4%と利用は少ない傾向。
- ② 地域別では、「北海道・東北」「九州・沖縄」で10.8%、「北陸」で10.5%と高く、逆に「東海」「近畿」「中国・四国」では利用はなかった。

[表42] 子実トウモロコシの利用状況：地域別 (N=349)

	N=	利用している	利用していない	N=	利用を継続・ 拡大したい (新規利用希望含む)	利用を減らすか 中止したい
全国	349	6.6	93.4	13	30.8	69.2
北海道・東北	102	10.8	89.2	11	27.3	72.7
関東	81	2.5	97.5	0	0.0	0.0
北陸	19	10.5	89.5	0	0.0	0.0
東海	30	0.0	100.0	0	0.0	0.0
近畿	12	0.0	100.0	0	0.0	0.0
中国・四国	31	0.0	100.0	0	0.0	0.0
九州・沖縄	74	10.8	89.2	2	50.0	50.0

(経営体数)

(%) (経営体数)

(%)

□エコフィード

- ① エコフィードを利用している経営体は全体の20.9%と約2割が活用している。地域別では、「近畿」68.8%が最も高く、次いで「東海」28.3%となっており、逆に「北海道・東北」が13.7%と最も低い。
- ② エコフィードの利用形態としては、「配合飼料」9.5%、「リキッド」5.5%、「ドライ」4.6%の順。地域別では「配合飼料」は「近畿」で43.8%、「北陸」で16.7%と高く、「リキッド」では「近畿」で25.0%、「ドライ」では「中国・四国」で11.1%と高い傾向がみられた。
- ③ 今後のエコフィードの利用意向をみると、「利用してみたい」が6.2%、「利用検討中」が1.4%となっており、この「利用したい」と「現在検討中」の合計は7.6%。前年の9.0%をやや下回っている。地域別では「利用してみたい」が「近畿」(注:回答の経営体数が少ない)で20.0%、「中国・四国」で18.5%と高くなっている。

[表43] エコフィードの利用状況：地域別 (N=527)

	N=	エコフィード利用あり						利用なし
		利用あり計	リキッド	ドライ	配合飼料	厨芥残さを加熱	厨芥残さをそのまま	
全国	527	20.9	5.5	4.6	9.5	1.1	2.3	79.1
北海道・東北	139	13.7	1.4	1.4	8.6	0.7	1.4	86.3
関東	137	19.0	8.0	5.8	4.4	0.0	1.5	81.0
北陸	24	20.8	0.0	4.2	16.7	0.0	0.0	79.2
東海	53	28.3	9.4	5.7	13.2	3.8	3.8	71.7
近畿	16	68.8	25.0	6.3	43.8	0.0	18.8	31.3
中国・四国	36	25.0	2.8	11.1	13.9	0.0	0.0	75.0
九州・沖縄	122	20.5	4.9	4.1	7.4	2.5	2.5	79.5

(経営体数) (%)

[表44] エコフィードの利用意向：地域別 (N=417)

	N=	利用検討中	利用してみたい	利用予定なし
全国	417	1.4	6.2	92.3
北海道・東北	120	0.8	7.5	91.7
関東	111	0.0	5.4	94.6
北陸	19	5.3	5.3	89.5
東海	38	0.0	0.0	100.0
近畿	5	0.0	20.0	80.0
中国・四国	27	3.7	18.5	77.8
九州・沖縄	97	3.1	4.1	92.8

(経営体数) (%)

□繁殖豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由で最も高いのは、「収益をアップするため」が35.8%。次いで「後継者が経営に参加したため」が11.9%、「出荷元から増頭の要請があったため」10.4%が上位となっている。
- ② 減頭の理由は、「母豚1頭当たりの繁殖成績が向上した」が26.7%と効率での減頭が最も高く、次いで「高齢化で労働が厳しい」が18.7%、「廃業予定」が14.7%の順となっている。
- ③ 減頭の理由「その他」では、「豚熱(CSF)のため」「災害」という意見が挙げられた。

【表47】 増頭の理由：複数回答可・地域別 (N=67)

	N=	収益をアップ するため	後継者が 経営に 参加したため	出荷元から 増頭の要請が あつたため	事情があつて 減頭していた のを戻した	繁殖成績が 低下し 出荷頭数を 維持するため	近隣に 土地を購入 できたため	養豚農家 減少を 見越した投資	その他
全国	67	35.8	11.9	10.4	9.0	7.5	6.0	4.5	14.9
北海道・東北	28	39.3	3.6	10.7	3.6	3.6	7.1	7.1	25.0
関東	13	30.8	15.4	7.7	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7
北陸	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
近畿	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中国・四国	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九州・沖縄	23	34.8	21.7	8.7	13.0	8.7	4.3	0.0	8.7

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。(%)

【表48】 減頭の理由：複数回答可・地域別 (N=75)

	N=	母豚1頭 当たりの 繁殖成績が 向上した	高齢化で 労働が 厳しい	廃業予定	従業員等 労働力が 確保 できない	疾病対策等 で一時的に 減頭している	環境対策 のため	コスト高騰で 規模を縮小 した	委託・預託 農場に なるため	その他
全国	75	26.7	18.7	14.7	10.7	9.3	1.3	0.0	0.0	18.7
北海道・東北	16	18.8	18.8	18.8	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	25.0
関東	16	31.3	25.0	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	18.8
北陸	3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
東海	11	9.1	27.3	9.1	0.0	36.4	0.0	0.0	0.0	18.2
近畿	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
中国・四国	7	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
九州・沖縄	21	38.1	19.0	19.0	19.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。(%)

□肥育豚飼養頭数増減の理由

- ① 増頭の理由で最も高いのは、「収益をアップするため」が42.9%、次いで「出荷元から増頭の要請があったため」が19.0%だった。
- ② 減頭の理由で最も高いのは、「高齢化で労働が厳しい」26.1%、次いで「疾病対策などで一時的に減頭している」「廃業予定」13.0%となった。
- ③ 減頭理由の「その他」では、繁殖豚同様に「豚熱(CSF)のため」「災害」などの意見が聞かれた。

【表51】 増頭の理由：複数回答可・地域別 (N=21)

	N=	収益をアップ するため	出荷元から増 頭の要請が あったため	近隣に 土地を購入 できたため	増体が良く 出荷が早く なつたため	事情があつて 減頭していた のを戻した	後継者が 経営に 参加したため	養豚農家 減少を 見越した投資	その他
全国	21	42.9	19.0	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	19.0
北海道・東北	7	28.6	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
関東	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北陸	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
近畿	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
中国・四国	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九州・沖縄	7	42.9	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。(%)

【表52】 減頭の理由：複数回答可・地域別 (N=23)

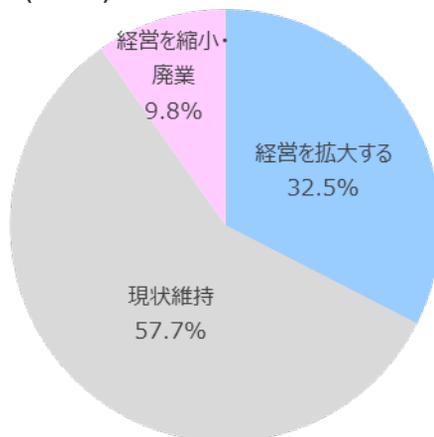
	N=	高齢化で 労働が 厳しい	疾病対策等 で一時的に 減頭 している	廃業予定	環境対策 のため	コスト高騰 で規模を 縮小した	従業員等 労働力が 確保 できない	事故率が あがつたため	委託・預託 農場に なるため	その他
全国	23	26.1	13.0	13.0	8.7	4.3	4.3	0.0	0.0	30.4
北海道・東北	5	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
関東	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0
北陸	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	4	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
近畿	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
中国・四国	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九州・沖縄	6	50.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。(%)

□今後の養豚経営の意向

- ① 今後の養豚経営の意向は「経営を拡大する」が32.5%と前年度より3.4%増加した。「現状維持」57.7%、「経営を縮小」が9.8%と、「現状維持」の割合が減少し、「拡大」の意向が増加している。
- ② 経営者の年代別では、「拡大する」では、「20・30才代」で53.5%、「40才代」が47.8%と若年層で目立って高い。「縮小・廃業する」は、「70代～」で19.1%と目立って高い。
- ③ 後継者の有無別については、「拡大する」では「経営者が若い」が53.3%、「後継者あり」が47.9%、「後継者あり未定」が40.4%と高い。「縮小・廃業する」では、「後継者なし」が31.0%と目立つ。
- ④ [表55]の地域別では、「拡大する」が「北海道・東北」で37.8%と目立って高く、「縮小・廃業する」では「東海」21.7%、「近畿」18.8%が目立つ。

【図21】 今後の養豚経営の意向：全国 (N=692)



【表53】 今後の養豚経営の意向：年代別 (N=585)

	N=	経営を拡大する	現状維持	経営を縮小・廃業
全年代	585	33.2 (194)	56.2 (329)	10.6 (62)
20・30才代	43	53.5 (23)	41.9 (18)	4.7 (2)
40代	113	47.8 (54)	47.8 (54)	4.4 (5)
50代	121	26.4 (32)	62.8 (76)	10.7 (13)
60代	198	30.3 (60)	59.1 (117)	10.6 (21)
70代～	110	22.7 (25)	58.2 (64)	19.1 (21)

(経営体数) (% (経営体数))

【表54】 今後の養豚経営の意向：後継者有無別 (N=655)

	N=	経営を拡大する	現状維持	経営を縮小・廃業
全体	655	33.1 (217)	57.1 (374)	9.8 (64)
後継者あり	190	47.9 (91)	48.9 (93)	3.2 (6)
候補あり未定	109	40.4 (44)	58.7 (64)	0.9 (1)
経営者が若い	75	53.3 (40)	46.7 (35)	0.0 (0)
後継者なし	168	6.5 (11)	62.5 (105)	31.0 (52)
経営体が異なる	113	27.4 (31)	68.1 (77)	4.4 (5)

(経営体数) (% (経営体数))

[表55] 今後の養豚経営の意向：地域別 (N=692)

	N=	経営を拡大する	現状維持	経営を縮小・廃業
全国	692	32.5 (225)	57.7 (399)	9.8 (68)
北海道・東北	180	37.8 (68)	55.0 (99)	7.2 (13)
関東	192	28.1 (54)	62.0 (119)	9.9 (19)
北陸	25	36.0 (9)	52.0 (13)	12.0 (3)
東海	60	23.3 (14)	55.0 (33)	21.7 (13)
近畿	16	37.5 (6)	43.8 (7)	18.8 (3)
中国・四国	49	24.5 (12)	69.4 (34)	6.1 (3)
九州・沖縄	170	36.5 (62)	55.3 (94)	8.2 (14)

(経営体数) (% (経営体数))

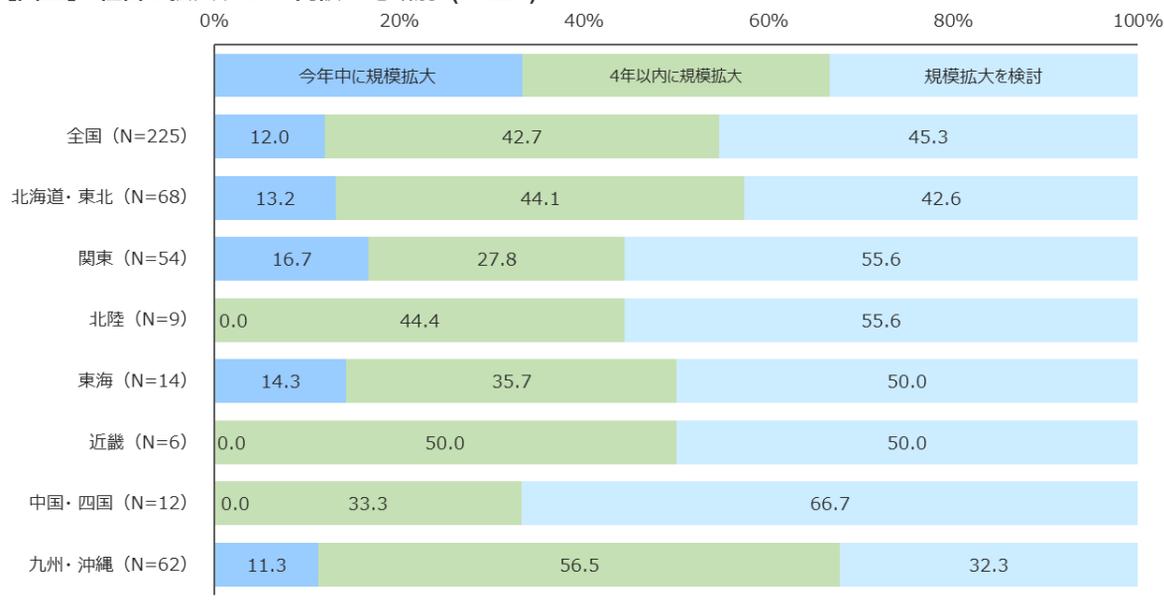
- ⑤ 「経営を拡大する」の内訳は、「今年中に規模拡大を計画している」12.0%、「4年以内に規模拡大を計画している」42.7%、「具体的な計画はないが規模拡大を検討したい」45.3%となっている。
- ⑥ 地域別では、「関東」「東海」で「今年中に規模拡大を計画している」がやや高くなっている。

[表56] 経営を拡大する の内訳：地域別 (N=225)

	N=	経営を拡大する		
		今年中に規模拡大を計画している	4年以内に規模拡大を計画している	具体的な計画はないが、規模拡大を検討したい
全国	225	12.0 (27)	42.7 (96)	45.3 (102)
北海道・東北	68	13.2 (9)	44.1 (30)	42.6 (29)
関東	54	16.7 (9)	27.8 (15)	55.6 (30)
北陸	9	0.0 (0)	44.4 (4)	55.6 (5)
東海	14	14.3 (2)	35.7 (5)	50.0 (7)
近畿	6	0.0 (0)	50.0 (3)	50.0 (3)
中国・四国	12	0.0 (0)	33.3 (4)	66.7 (8)
九州・沖縄	62	11.3 (7)	56.5 (35)	32.3 (20)

(経営体数) (% (経営体数))

[図22] 経営を拡大する の内訳：地域別 (N=225)



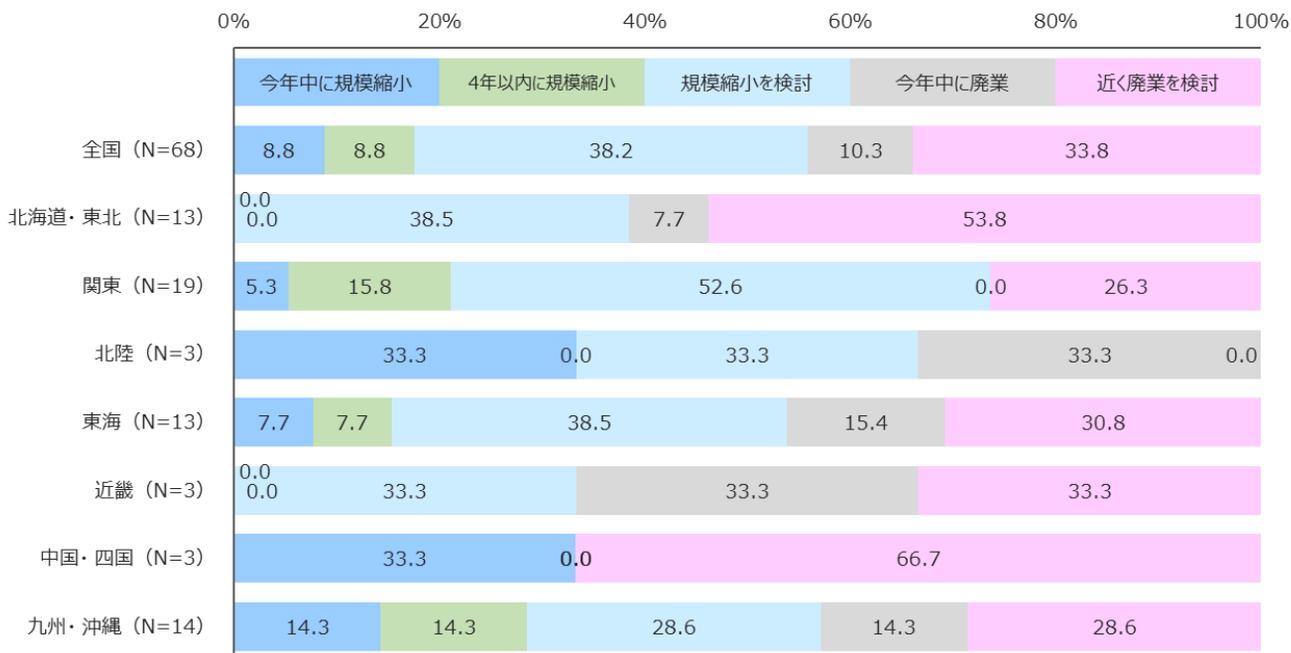
- ⑦ 「経営を縮小する」の内訳では「近く廃業」が33.8%で最も高く、「今年中に廃業」10.3%を合わせた30経営体 44.1%が廃業を考えている。
- ⑧ 地域別では、特に「北海道・東北」で「近く廃業」が53.8%と高い。
- ⑨ [表58]～[表60]までの、子取り用雌豚飼養規模別をみると、「経営を拡大する」のは500頭以上の規模で高く、逆に経営を「縮小・廃業する」では「49頭以下」の規模で高い傾向。大規模経営で拡大意向、小規模経営での縮小・廃業傾向が顕著にみられる。

[表57] 経営を縮小する の内訳：地域別 (N=68)

	N=	経営を縮小する				
		今年中に規模縮小	4年以内に規模縮小	規模縮小を検討意向	今年中に廃業	近く廃業
全国	68	8.8 (6)	8.8 (6)	38.2 (26)	10.3 (7)	33.8 (23)
北海道・東北	13	0.0 (0)	0.0 (0)	38.5 (5)	7.7 (1)	53.8 (7)
関東	19	5.3 (1)	15.8 (3)	52.6 (10)	0.0 (0)	26.3 (5)
北陸	3	33.3 (1)	0.0 (0)	33.3 (1)	33.3 (1)	0.0 (0)
東海	13	7.7 (1)	7.7 (1)	38.5 (5)	15.4 (2)	30.8 (4)
近畿	3	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (1)	33.3 (1)	33.3 (1)
中国・四国	3	33.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	66.7 (2)
九州・沖縄	14	14.3 (2)	14.3 (2)	28.6 (4)	14.3 (2)	28.6 (4)

(経営体数) (% (経営体数))

[図23] 経営を縮小する の内訳：地域別 (N=68)



[表58] 今後の養豚経営の意向：子取り用雌豚飼養規模別 (N=586)

	N=	経営を拡大する	現状維持	経営を縮小・廃業
全体	586	34.0 (199)	57.2 (335)	8.9 (52)
1～19頭	49	12.2 (6)	73.5 (36)	14.3 (7)
20～49頭	72	8.3 (6)	70.8 (51)	20.8 (15)
50～99頭	89	30.3 (27)	57.3 (51)	12.4 (11)
100～199頭	109	33.9 (37)	56.0 (61)	10.1 (11)
200～499頭	136	35.3 (48)	60.3 (82)	4.4 (6)
500～999頭	65	60.0 (39)	36.9 (24)	3.1 (2)
1,000頭～	66	54.5 (36)	45.5 (30)	0.0 (0)

(経営体数) (経営体数)

[表59] 経営を拡大するの内訳：子取り用雌豚飼養規模別 (N=199)

	N=	経営を拡大する		
		今年中に規模拡大	4年以内に規模拡大	規模拡大を検討意向
全体	199	11.1 (22)	45.2 (90)	43.7 (87)
1～19頭	6	16.7 (1)	50.0 (3)	33.3 (2)
20～49頭	6	0.0 (0)	50.0 (3)	50.0 (3)
50～99頭	27	14.8 (4)	37.0 (10)	48.1 (13)
100～199頭	37	16.2 (6)	27.0 (10)	56.8 (21)
200～499頭	48	6.3 (3)	62.5 (30)	31.3 (15)
500～999頭	39	10.3 (4)	38.5 (15)	51.3 (20)
1,000頭～	36	11.1 (4)	52.8 (19)	36.1 (13)

(経営体数) (経営体数)

[表60] 経営を縮小するの内訳：子取り用雌豚飼養規模別 (N=52)

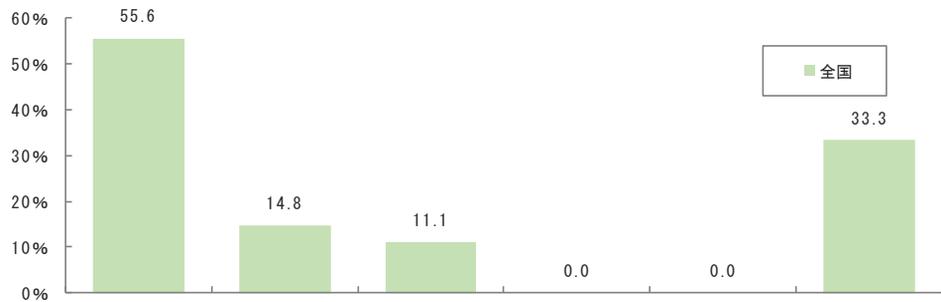
	N=	経営を縮小する				
		今年中に規模縮小	4年以内に規模縮小	規模縮小を検討意向	今年中に廃業	近々廃業
全体	52	9.6 (5)	11.5 (6)	38.5 (20)	5.8 (3)	34.6 (18)
1～19頭	7	14.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	14.3 (1)	71.4 (5)
20～49頭	15	0.0 (0)	0.0 (0)	40.0 (6)	6.7 (1)	53.3 (8)
50～99頭	11	18.2 (2)	18.2 (2)	36.4 (4)	9.1 (1)	18.2 (2)
100～199頭	11	0.0 (0)	36.4 (4)	45.5 (5)	0.0 (0)	18.2 (2)
200～499頭	6	33.3 (2)	0.0 (0)	66.7 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)
500～999頭	2	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (1)	0.0 (0)	50.0 (1)
1,000頭～	0	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)

(経営体数) (経営体数)

□ 廃業

- ① 「廃業したいと考えている」または「廃業する計画がある」の理由を回答した27経営体で見ると、「後継者がいない」が55.6%で最も高く、次いで「環境問題」14.8%、「労働力が確保できないため」11.1%となっている。
- ② 地域別ではN数が少ないが、「関東」で「後継者がいない」が66.7%、「労働力が確保できないため」33.3%と人材不足での理由が目立った。

【図24】 今年中に廃業・近く廃業の理由：地域別 (N=27)



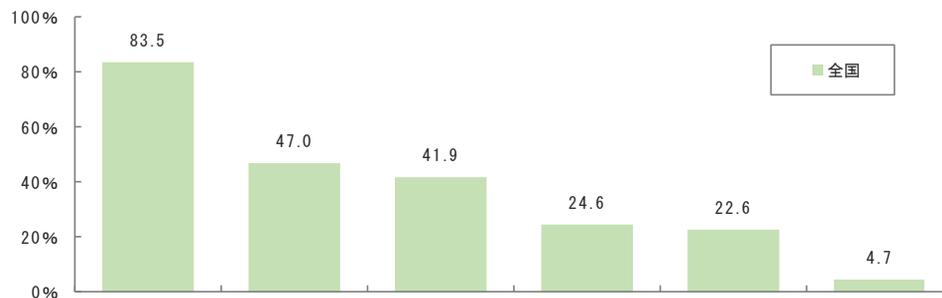
	N=	後継者が いないため	環境問題 のため	労働力が確保 できないため	負債が あるため	生産資材の高騰 で儲からないから	その他
全国	27	55.6 (15)	14.8 (4)	11.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	33.3 (9)
北海道・東北	8	62.5 (5)	12.5 (1)	12.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (4)
関東	3	66.7 (2)	0.0 (0)	33.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
北陸	1	0.0 (0)	100.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
東海	6	50.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (3)
近畿	2	50.0 (1)	50.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	50.0 (1)
中国・四国	2	50.0 (1)	50.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)
九州・沖縄	5	60.0 (3)	0.0 (0)	20.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	20.0 (1)

(経営体数) (% (経営体数))

□生産コスト削減の取り組みについて

- ① 生産コスト削減の取り組みに重要と考える項目について、「飼料費」が83.5%で最も高く、次いで「衛生費」47.0%、「建物・設備費」41.9%、「労働費」24.6%「規模拡大等によるスケールメリット」22.6%となっている。前年度と比較すると「労働費」が4位(前回5位18.0%)と高くなっている。
- ② 地域別にみると、「飼料費」については、「北陸」で90.0%と高く、「衛生費」でも「北陸」が55.0%と高く、北陸での生産コストに対する積極性が見受けられる。
- ③ 「その他」の回答としては、「生産性向上」、「繁殖成績の向上」などの意見が挙げられた。

【図25】 生産コスト削減の重要度：地域別 (N=570)



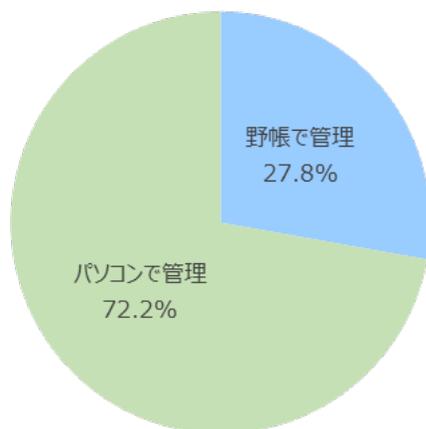
	N=	飼料費	衛生費	建物・設備費	労働費	規模拡大等によるスケールメリット	その他
全国	570	83.5 (476)	47.0 (268)	41.9 (239)	24.6 (140)	22.6 (129)	4.7 (27)
北海道・東北	152	84.9 (129)	44.1 (67)	46.1 (70)	27.0 (41)	26.3 (40)	5.3 (8)
関東	153	88.2 (135)	46.4 (71)	39.9 (61)	26.1 (40)	17.6 (27)	2.0 (3)
北陸	20	90.0 (18)	55.0 (11)	20.0 (4)	35.0 (7)	40.0 (8)	0.0 (0)
東海	52	71.2 (37)	51.9 (27)	30.8 (16)	28.8 (15)	19.2 (10)	3.8 (2)
近畿	13	69.2 (9)	30.8 (4)	38.5 (5)	15.4 (2)	15.4 (2)	23.1 (3)
中国・四国	39	87.2 (34)	48.7 (19)	46.2 (18)	20.5 (8)	12.8 (5)	5.1 (2)
九州・沖縄	141	80.9 (114)	48.9 (69)	46.1 (65)	19.1 (27)	26.2 (37)	6.4 (9)

(経営体数) (経営体数)

□経営管理の方法

- ① 経営管理の方法としては、「野帳で管理している」が27.8%、「パソコンで管理している」が72.2%と、昨年度と比較するとパソコンでの管理が増えている(昨年度60.3%)。
- ② 年代別では、「野帳での管理」が、「70代～」40.3%と高く、次いで「60代」32.5%。「パソコンでの管理」は「20・30代」で82.3%と目立って高い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「99頭以下」の規模で「野帳での管理」が多く、「200頭以上」の規模で「パソコンでの管理」が目立つ。

[図26] 経営管理の方法：全国 (N=504)



[表61] 経営管理の方法：複数回答可・年代別 (N=418)

	N=	野帳で管理している			パソコン計	パソコンで管理している		
		野帳計	経営者以外が野帳で管理	野帳で管理するデータをハンチマッキングに活用		経営者がパソコンで管理	経営者以外がパソコンで管理	パソコンで管理するデータをハンチマッキングに活用
全年代	418	29.2 (122)	15.8 (66)	13.4 (56)	70.9 (296)	37.1 (155)	18.7 (78)	15.1 (63)
20・30代	34	17.6 (6)	2.9 (1)	14.7 (5)	82.3 (28)	35.3 (12)	23.5 (8)	23.5 (8)
40代	85	24.7 (21)	11.8 (10)	12.9 (11)	75.3 (64)	40.0 (34)	12.9 (11)	22.4 (19)
50代	86	24.5 (21)	10.5 (9)	14.0 (12)	75.6 (65)	41.9 (36)	17.4 (15)	16.3 (14)
60代	151	32.5 (49)	19.9 (30)	12.6 (19)	67.5 (102)	36.4 (55)	20.5 (31)	10.6 (16)
70代～	62	40.3 (25)	25.8 (16)	14.5 (9)	59.7 (37)	29.0 (18)	21.0 (13)	9.7 (6)

(経営体数) (% (経営体数))

[表62] 経営管理の方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=434)

	N=	野帳で管理している			パソコン計	パソコンで管理している		
		野帳計	経営者以外が野帳で管理	野帳で管理するデータをハンチマッキングに活用		経営者がパソコンで管理	経営者以外がパソコンで管理	パソコンで管理するデータをハンチマッキングに活用
全体	434	27.4 (119)	15.2 (66)	12.2 (53)	72.6 (315)	36.4 (158)	18.0 (78)	18.2 (79)
1～19頭	19	42.2 (8)	21.1 (4)	21.1 (4)	57.9 (11)	42.1 (8)	15.8 (3)	0.0 (0)
20～49頭	51	56.9 (29)	31.4 (16)	25.5 (13)	43.1 (22)	23.5 (12)	15.7 (8)	3.9 (2)
50～99頭	54	46.3 (25)	14.8 (8)	31.5 (17)	53.7 (29)	25.9 (14)	20.4 (11)	7.4 (4)
100～199頭	78	32.1 (25)	21.8 (17)	10.3 (8)	68.0 (53)	46.2 (36)	7.7 (6)	14.1 (11)
200～499頭	119	19.4 (23)	11.8 (14)	7.6 (9)	80.6 (96)	43.7 (52)	19.3 (23)	17.6 (21)
500～999頭	56	8.9 (5)	7.1 (4)	1.8 (1)	91.0 (51)	32.1 (18)	21.4 (12)	37.5 (21)
1,000頭～	57	7.1 (4)	5.3 (3)	1.8 (1)	93.0 (53)	31.6 (18)	26.3 (15)	35.1 (20)

(経営体数) (% (経営体数))

■13.衛生管理について

□重点的に実施している衛生管理方法

- ① 実施している衛生管理方法の上位は「各豚舎に消毒槽を設置している」が79.6%と8割近くが実施、次いで、「車両消毒を徹底している」75.4%、「農場に入る際は、専用の作業着に着替える」66.6%、「訪問者の台帳を作成している」58.0%、「長靴の靴底の洗浄・消毒を1日の作業後に毎日している」52.0%といずれも5割を超えている。
- ② オールイン・オールアウトは、全部実施17.5%、一部実施26.2%と合計で43.7%が実施している。

[表63] 実施している衛生管理方法：地域別（N=691）

	N=	豚舎に入るときは石鹸で手洗い手指消毒をしている	各豚舎に消毒槽を設置している	豚舎ごとに長靴を履き替えている	長靴の靴底の洗浄・消毒を1日の作業後に毎日している	農場に入る際は専用の作業着に着替える	シャワーイン・シャワーアウトを行っている	衛生管理区域を設け、ゾーニングをしている
全国	691	25.0	79.6	45.3	52.0	66.6	25.6	40.2
北海道・東北	182	28.6	81.9	56.6	50.0	78.0	43.4	51.1
関東	192	18.8	81.3	43.2	50.0	63.0	16.1	30.7
北陸	22	31.8	90.9	63.6	63.6	72.7	18.2	63.6
東海	58	37.9	65.5	50.0	48.3	60.3	17.2	55.2
近畿	15	20.0	66.7	13.3	66.7	46.7	13.3	26.7
中国・四国	48	27.1	83.3	35.4	52.1	62.5	12.5	43.8
九州・沖縄	174	23.0	78.7	37.4	54.6	62.6	25.9	31.6

(経営体数)

(%)

	N=	農場の周囲を柵で囲っている	従業員の担当部署を決め、ほかの豚舎には立ち入らない	分娩→離乳→肥育のよう順に衛生レベルの順に管理している	車両消毒を徹底している	訪問者の台帳を作成している	飲水を消毒している	病害虫・鳥獣などの対策をしている
全国	691	25.8	24.5	38.1	75.4	58.0	23.3	47.8
北海道・東北	182	22.5	27.5	49.5	72.0	59.3	29.7	53.8
関東	192	23.4	21.4	34.4	73.4	47.4	13.5	42.7
北陸	22	31.8	27.3	27.3	86.4	68.2	13.6	59.1
東海	58	43.1	22.4	39.7	79.3	77.6	27.6	53.4
近畿	15	40.0	13.3	0.0	100.0	46.7	20.0	53.3
中国・四国	48	33.3	25.0	29.2	77.1	68.8	29.2	39.6
九州・沖縄	174	21.8	25.9	36.8	75.9	58.6	25.9	45.4

(経営体数)

(%)

	N=	豚舎間で人や資材が交差しないようにしている	豚を移動するときに、足が地面につかないようにしている	死亡豚はレンダリング処理をしている	オールイン・オールアウトを実施している（全部）	オールイン・オールアウトを実施している（一部）	ダウンタイムを設けている
全国	691	20.1	23.2	33.9	17.5	26.2	23.0
北海道・東北	182	20.3	30.8	42.3	24.2	30.2	33.5
関東	192	16.7	19.3	28.6	14.6	24.0	15.6
北陸	22	22.7	22.7	27.3	0.0	40.9	27.3
東海	58	29.3	25.9	27.6	15.5	20.7	20.7
近畿	15	33.3	13.3	26.7	6.7	20.0	20.0
中国・四国	48	22.9	8.3	31.3	6.3	22.9	18.8
九州・沖縄	174	18.4	23.6	35.1	20.7	25.9	21.8

(経営体数)

(%)

[表64] 実施している衛生管理方法：子取り用雌豚飼養規模別 (N=585)

	N=	豚舎に入るときは石鹸で手洗い手指消毒をしている	各豚舎に消毒槽を設置している	豚舎ごとに長靴を履き替えている	長靴の靴底の洗浄・消毒を1日の作業後に毎日している	農場に入る際は専用の作業着に着替える	シャワーイン・シャワーアウトを行っている	衛生管理区域を設け、ゾーニングをしている
全体	585	25.8	80.7	47.7	51.8	66.3	27.7	42.1
1～19頭	48	29.2	83.3	8.3	47.9	41.7	2.1	18.8
20～49頭	72	15.3	77.8	34.7	45.8	41.7	6.9	25.0
50～99頭	86	25.6	74.4	38.4	54.7	59.3	8.1	31.4
100～199頭	105	21.9	79.0	35.2	54.3	58.1	17.1	30.5
200～499頭	141	24.1	76.6	59.6	45.4	78.7	27.7	45.4
500～999頭	65	30.8	90.8	76.9	58.5	84.6	69.2	70.8
1,000頭～	68	39.7	91.2	67.6	60.3	88.2	69.1	73.5

(経営体数)

(%)

	N=	農場の周囲を、柵で囲っている	従業員の担当部署を決め、ほかの豚舎には立ち入らない	分娩→離乳→肥育のように、衛生レベルの順に管理している	車両消毒を徹底している	訪問者の台帳を作成している	飲水を消毒している	病害虫・鳥・獣などの対策をしている
全体	585	26.7	25.0	40.9	75.0	59.0	24.1	48.7
1～19頭	48	27.1	8.3	18.8	45.8	35.4	10.4	35.4
20～49頭	72	19.4	5.6	18.1	50.0	40.3	11.1	30.6
50～99頭	86	17.4	5.8	25.6	68.6	57.0	10.5	43.0
100～199頭	105	16.2	11.4	41.9	78.1	54.3	13.3	42.9
200～499頭	141	29.1	29.8	46.8	83.0	59.6	26.2	53.2
500～999頭	65	46.2	47.7	61.5	87.7	76.9	49.2	60.0
1,000頭～	68	38.2	70.6	66.2	97.1	86.8	52.9	73.5

(経営体数)

(%)

	N=	豚舎間で人や資材が交差しないようになっている	豚を移動するとき、足か地面につかないようにしている	死亡豚はレンダリング処理をしている	オールイン・オールアウトを実施している(全部)	オールイン・オールアウトを実施している(一部)	ダウンタイムを設けている
全体	585	20.3	24.8	34.4	16.2	26.7	25.1
1～19頭	48	12.5	4.2	10.4	0.0	4.2	12.5
20～49頭	72	11.1	18.1	19.4	2.8	8.3	5.6
50～99頭	86	11.6	14.0	26.7	2.3	12.8	12.8
100～199頭	105	12.4	21.9	25.7	4.8	27.6	14.3
200～499頭	141	19.9	29.8	34.0	21.3	36.2	20.6
500～999頭	65	36.9	36.9	55.4	41.5	40.0	56.9
1,000頭～	68	44.1	42.6	70.6	42.6	45.6	66.2

(経営体数)

(%)

□ダウンタイムの実施率

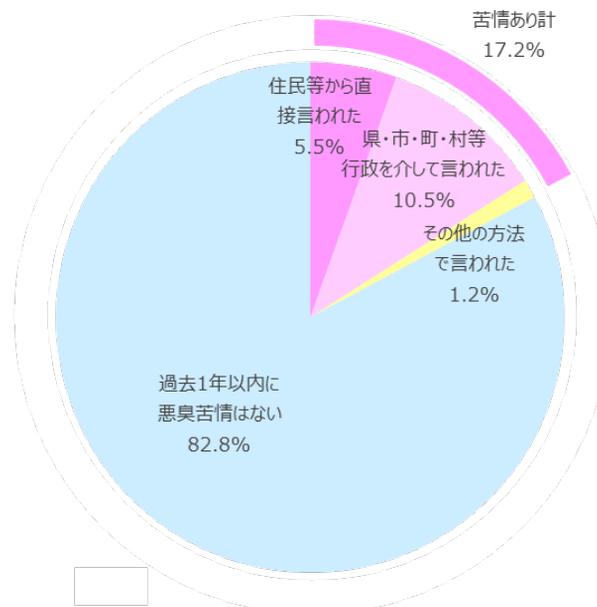
- ① [表63]ダウンタイムの実施は全国(地域別)で23.0%が実施、地域別では「北海道・東北」で33.5%と目立って高い。子取り用雌豚飼養規模別では「500～999頭」で56.9%、「1,000頭～」66.2%と規模が大きい経営体での実施率が高い傾向。
- ② ダウンタイムの実施時間は最大で168時間、最少で3時間、平均では45.6時間となっている。

■14.環境対策について

□近隣からの悪臭苦情の有無

- ① 全体では、「ある」と回答したのは17.2%で、約2割弱の農場で苦情を受けている(昨年度18.5%)。
- ② 苦情については、「県・市・町・村等行政を介して」が10.5%、「住民等から直接言われた」5.5%、「その他の方法で言われた」が1.2%となっている。
- ③ 地域別では「苦情あり」が「北陸」で33.3%と高め、逆に「苦情なし」では「中国・四国」で87.8%と、苦情が少ない傾向がある。
- ④ [表66]子取り用雌豚飼養規模別では、「苦情あり」が「1,000頭～」の頭数で37.3%と高く、逆に「苦情なし」は、「1～19頭」94.1%、「20～49頭」92.9%となっている、大規模で苦情が多く、小規模で苦情が少ない傾向となっている。
- ⑤ [表67]経営形態別では、「苦情あり」が「農業協同組合法人の直営養豚場」で25.0%と高く、「苦情なし」では「個人経営」が88.4%と苦情が少なくなっている。
- ⑥ [表68]経営タイプ別では、「一貫経営」で「苦情あり」が19.5%とやや目立つ。

【図27】 近隣からの悪臭苦情の有無：全国 (N=686)



【表65】 近隣からの悪臭苦情の有無：地域別 (N=686)

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				過去1年以内に悪臭苦情はない (%)
		言われた計	住民等から直接言われた	県市町村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた	
全国	686	17.2	5.5	10.5	1.2	82.8
北海道・東北	178	14.6	4.5	9.0	1.1	85.4
関東	195	20.0	6.7	11.8	1.5	80.0
北陸	24	33.3	8.3	20.8	4.2	66.7
東海	57	21.1	8.8	12.3	0.0	78.9
近畿	16	12.6	0.0	6.3	6.3	87.5
中国・四国	49	12.3	4.1	8.2	0.0	87.8
九州・沖縄	167	15.0	4.8	9.6	0.6	85.0

(経営体数)

(%)

[表66] 近隣からの悪臭苦情の有無：子取り用雌豚飼養規模別（N=581）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた	
全体	581	17.8	5.9	11.0	0.9	82.3
1～19頭	51	5.9	3.9	2.0	0.0	94.1
20～49頭	70	7.2	2.9	4.3	0.0	92.9
50～99頭	89	17.9	5.6	10.1	2.2	82.0
100～199頭	101	15.9	5.0	9.9	1.0	84.2
200～499頭	137	17.5	3.6	13.9	0.0	82.5
500～999頭	66	21.2	12.1	9.1	0.0	78.8
1,000頭～	67	37.3	10.4	23.9	3.0	62.7

(経営体数) (%)

[表67] 近隣からの悪臭苦情の有無：経営形態別（N=678）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた	
全体	678	17.1	5.3	10.6	1.2	82.9
個人経営	232	11.6	3.4	6.5	1.7	88.4
法人経営	405	21.3	6.2	14.1	1.0	78.8
農業協同組合法人の直営養豚場	12	25.0	25.0	0.0	0.0	75.0
その他	29	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
契約・預託農場である	55	20.0	9.1	10.9	0.0	80.0
契約・預託農場ではない	382	17.3	5.2	10.5	1.6	82.7

(経営体数) (%)

[表68] 近隣からの悪臭苦情の有無：経営タイプ別（N=567）

	N=	過去1年以内に悪臭苦情を言われた				過去1年以内に悪臭苦情はない
		言われた計	住民等から直接言われた	県・市・町・村等行政を介して言われた	その他の方法で言われた	
全体	567	18.0	5.5	11.3	1.2	82.0
一貫経営	492	19.5	5.9	12.4	1.2	80.5
繁殖経営	50	8.0	2.0	4.0	2.0	92.0
肥育経営	25	8.0	4.0	4.0	0.0	92.0

(経営体数) (%)

□排せつ物の処理方法

- ① 「ふん(分離処理)」の処理方法では、「堆肥化(開放式)」が69.1%と一番高く、次いで「堆肥化(密閉式)」26.6%、「廃棄物として処理」2.1%の順となっている。
- ② 地域別では、「中国・四国」で「堆肥化(開放式)」が80.0%と高く、「東海」で「堆肥化(密閉式)」が36.7%と高い傾向がある。「中国・四国」「九州・沖縄」では「堆肥化(密閉式)」がやや低い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「99頭以下」の小規模で「堆肥化(開放式)」が多く、「200頭以上」の大規模で「堆肥化(密閉式)」が多い傾向となっている。

【表69】 ふんの処理方法：複数回答可・地域別 (N=579)

	N=	堆肥化(開放式)	堆肥化(密閉式)	廃棄物として処理 (処理方法不明)	その他
全国	579	69.1	26.6	2.1	2.2
北海道・東北	144	69.4	25.0	3.5	2.1
関東	171	68.4	31.0	0.0	0.6
北陸	23	65.2	30.4	4.3	0.0
東海	49	61.2	36.7	0.0	2.0
近畿	9	66.7	22.2	0.0	11.1
中国・四国	40	80.0	20.0	0.0	0.0
九州・沖縄	143	69.9	21.0	4.2	4.9

(経営体数) (%)

【表70】 ふんの処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=499)

	N=	堆肥化(開放式)	堆肥化(密閉式)	廃棄物として処理 (処理方法不明)	その他
全体	499	68.7	27.9	2.0	1.4
1～19頭	46	78.3	13.0	4.3	4.3
20～49頭	62	87.1	9.7	0.0	3.2
50～99頭	86	76.7	19.8	3.5	0.0
100～199頭	96	71.9	25.0	2.1	1.0
200～499頭	120	54.2	43.3	1.7	0.8
500～999頭	51	58.8	39.2	2.0	0.0
1,000頭～	38	60.5	36.8	0.0	2.6

(経営体数) (%)

- ④ 「尿(分離処理)」の処理方法では、「浄化処理」が75.0%と一番高く、次いで「液肥化処理」11.8%、「廃棄物として処理」2.5%、「下水道処理」2.4%となっている。
- ⑤ 地域別では、「北陸」「東海」「中国・四国」「九州・沖縄」で「浄化処理」が8割以上と高く、「関東」では「液肥化処理」が18.2%とやや高くなっている。
- ⑥ 子取り用雌豚飼養規模別では、「100頭以上」の規模で「浄化処理」、「20～99頭」の頭数で「液肥化処理」が高く、「1～19頭」では「廃棄物として処理」が13.2%とやや高くなっている。

【表71】 尿の処理方法：複数回答可・地域別 (N=593)

	N=	浄化処理	液肥化処理	廃棄物として 処理 (処理方法不明)	下水道処理	メタン発酵処理	その他
全国	593	75.0	11.8	2.5	2.4	1.2	7.1
北海道・東北	152	70.4	13.2	4.6	1.3	0.7	9.9
関東	170	68.8	18.2	2.9	4.1	1.2	4.7
北陸	22	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	53	81.1	3.8	1.9	0.0	0.0	13.2
近畿	8	37.5	12.5	0.0	25.0	0.0	25.0
中国・四国	39	82.1	7.7	0.0	0.0	0.0	10.3
九州・沖縄	149	81.2	8.7	1.3	2.0	2.7	4.0

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。

(%)

【表72】 尿の処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=522)

	N=	浄化処理	液肥化処理	廃棄物として 処理 (処理方法不明)	下水道処理	メタン発酵処理	その他
全体	522	76.8	12.3	2.3	2.1	1.0	5.6
1～19頭	38	42.1	13.2	13.2	5.3	0.0	26.3
20～49頭	56	51.8	26.8	5.4	3.6	1.8	10.7
50～99頭	79	64.6	24.1	1.3	1.3	0.0	8.9
100～199頭	97	82.5	10.3	1.0	4.1	0.0	2.1
200～499頭	130	85.4	7.7	0.8	1.5	2.3	2.3
500～999頭	59	93.2	5.1	1.7	0.0	0.0	0.0
1,000頭～	63	93.7	3.2	0.0	0.0	1.6	1.6

(経営体数) 注) データは全体の高い順にソートしています。

(%)

- ⑦ 「ふん尿混合」の処理方法では、「堆肥化(開放式)」が55.9%で最も高く、次いで「浄化処理」21.2%、「堆肥化(密閉式)」9.9%、「液肥化処理」3.6%、「下水道処理」2.7%となっている。
- ⑧ 地域別では、「堆肥化(開放式)」が「中国・四国」で94.7%、「北陸」62.5%、「北海道・東北」61.2%と高く、「浄化処理」では「東海」40.0%、「九州・沖縄」27.3%、「堆肥化(密閉式)」では「北陸」が25.0%が目立つ(注:回答の農場数が少ない)。
- ⑨ 子取り用雌豚飼養規模別では、「200頭以上」で「浄化処理」が高く、特に「1,000頭～」では64.3%となっている。逆に「90頭以下」では「堆肥化(開放式)」が高く、特に「1～19頭」では80.8%と高くなっている。

【表73】 混合の処理方法：複数回答可・地域別 (N=222)

	N=	堆肥化 (開放式)	浄化処理	堆肥化 (密閉式)	液肥化処理	下水道処理	メタン 発酵処理	廃棄物として 処理 (処理方法不明)	その他
全国	222	55.9	21.2	9.9	3.6	2.7	1.4	1.4	4.1
北海道・東北	49	61.2	18.4	8.2	4.1	0.0	0.0	2.0	6.1
関東	63	52.4	20.6	14.3	3.2	3.2	3.2	0.0	3.2
北陸	8	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
東海	20	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
近畿	8	50.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0
中国・四国	19	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九州・沖縄	55	43.6	27.3	7.3	7.3	1.8	1.8	3.6	7.3

(経営体数) 注) データは全国の高い順にソートしています。(%)

【表74】 混合の処理方法：複数回答可・子取り用雌豚飼養規模別 (N=170)

	N=	堆肥化 (開放式)	浄化処理	堆肥化 (密閉式)	液肥化処理	下水道処理	メタン 発酵処理	廃棄物として 処理 (処理方法不明)	その他
全体	170	52.4	25.9	10.6	4.1	0.6	1.2	1.8	3.5
1～19頭	26	80.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5
20～49頭	26	61.5	19.2	3.8	11.5	0.0	0.0	0.0	3.8
50～99頭	26	61.5	19.2	15.4	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
100～199頭	31	51.6	16.1	9.7	3.2	0.0	3.2	9.7	6.5
200～499頭	28	35.7	39.3	14.3	3.6	3.6	3.6	0.0	0.0
500～999頭	19	36.8	36.8	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
1,000頭～	14	21.4	64.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

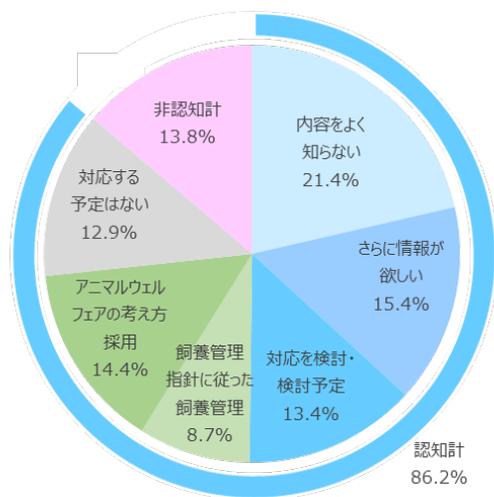
(経営体数) 注) データは地域別(表70)と同じ順にソートしています。(%)

■15.アニマルウェルフェアについて

□アニマルウェルフェアの認知度

- ① 経営体におけるアニマルウェルフェアの取り組みの状況については、アニマルウェルフェアを「知っている」が86.2%、「知らない」が13.8%と昨年度より認知者は増加している(昨年度80.9%)。
- ② 認知者の内容は「内容をよく知らない」が21.4%、「さらに情報が欲しい」15.4%、「アニマルウェルフェアの考え方を採用」14.4%となっている。
- ③ 地域別では「北陸」の認知度が91.2%と高く、逆に「近畿」では非認知度29.4%と3割近い。
- ④ 子取り用雌豚飼養規模別では、「200頭以上」の大規模で認知率が9割を超えており、逆に「99頭以下」では非認知率が高い傾向がある。

【図28】 アニマルウェルフェアの認知度
：全国 (N=644)



【表75】 アニマルウェルフェアの認知度：地域別 (N=644)

	N=	知っている計	認知						知らない(非認知)
			内容をよく知らない	さらに情報が欲しい	対応を検討・検討予定	飼養管理指針に従った飼養管理	アニマルウェルフェアの考え方を採用	対応する予定はない	
全国	644	86.2	21.4	15.4	13.4	8.7	14.4	12.9	13.8
北海道・東北	168	89.4	16.7	15.5	16.1	13.1	17.9	10.1	10.7
関東	175	86.4	26.3	15.4	10.9	6.3	16.6	10.9	13.7
北陸	23	91.2	17.4	13.0	26.1	4.3	17.4	13.0	8.7
東海	56	85.7	30.4	19.6	3.6	7.1	5.4	19.6	14.3
近畿	17	70.6	5.9	17.6	11.8	0.0	5.9	29.4	29.4
中国・四国	47	89.3	17.0	12.8	6.4	10.6	23.4	19.1	10.6
九州・沖縄	158	82.9	21.5	14.6	17.1	8.2	9.5	12.0	17.1

(経営体数) (%)

【表76】 アニマルウェルフェアの認知度：子取り用雌豚飼養規模別 (N=552)

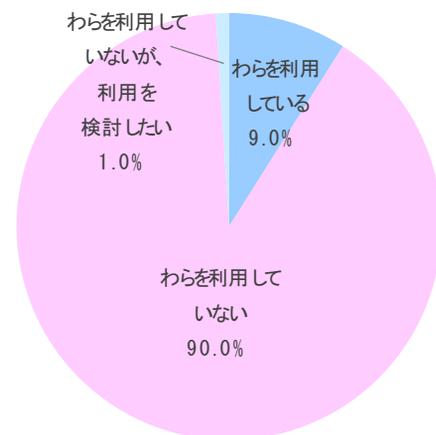
	N=	知っている計	認知						知らない(非認知)
			内容をよく知らない	さらに情報が欲しい	対応を検討・検討予定	飼養管理指針に従った飼養管理	アニマルウェルフェアの考え方を採用	対応する予定はない	
全体	552	88.1	21.0	15.6	13.6	8.9	15.8	13.2	12.0
1~19頭	40	80.0	17.5	10.0	12.5	7.5	25.0	7.5	20.0
20~49頭	69	71.0	31.9	11.6	7.2	2.9	11.6	5.8	29.0
50~99頭	83	82.0	30.1	14.5	7.2	3.6	13.3	13.3	18.1
100~199頭	96	87.6	27.1	21.9	7.3	6.3	12.5	12.5	12.5
200~499頭	133	93.2	17.3	21.8	15.0	11.3	11.3	16.5	6.8
500~999頭	65	98.4	10.8	9.2	27.7	7.7	21.5	21.5	1.5
1,000頭~	66	98.5	9.1	9.1	21.2	22.7	25.8	10.6	1.5

(経営体数) (%)

□母豚へのわらの利用

- ① 母豚へのわらの利用は90.0%が「利用していない」と回答した。「利用している」は9.0%に留まる。
- ② 地域別では、最もわらを「利用している」のは「北海道・東北」で19.0%となっている。

【図29】 母豚へのわらの利用率：全国 (N=613)



【表77】 母豚へのわらの利用率：地域別 (N=613)

	N=	わらを利用している	わらを利用していない	わらを利用していないが、 利用を検討したい
全国	613	9.0	90.0	1.0
北海道・東北	163	19.0	80.4	0.6
関東	172	8.1	90.1	1.7
北陸	25	0.0	100.0	0.0
東海	52	3.8	96.2	0.0
近畿	11	0.0	100.0	0.0
中国・四国	44	6.8	93.2	0.0
九州・沖縄	146	3.4	95.2	1.4

(経営体数) (%)

□飼料中の食物繊維・粗たんぱく質について

- ① 胃潰瘍を最小限とするために飼料中の食物繊維の増量・粗たんぱく質の低減した飼料給与をしているかを聞いたところ、「はい」との回答が35.2%、「いいえ」29.8%、「わからない」35.0%となっている。
- ② 地域別では、「北海道・東北」で「はい」が42.8%と目立って高い。

【表78】 胃潰瘍に配慮した飼料給与の実施率：地域別 (N=637)

	N=	はい	いいえ	わからない
全国	637	35.2	29.8	35.0
北海道・東北	166	42.8	25.9	31.3
関東	182	34.6	27.5	37.9
北陸	23	34.8	39.1	26.1
東海	53	32.1	34.0	34.0
近畿	17	23.5	35.3	41.2
中国・四国	43	32.6	44.2	23.3
九州・沖縄	153	30.7	29.4	39.9

(経営体数) (%)

■16.輸出について

□輸出

- ① 輸出の取り組みについては、「既に輸出している」1.4%、「準備中」0.5%、「機会があれば輸出したい」6.3%、「販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」2.4%と、輸出をする、あるいは輸出希望との回答は10.6%となった。
- ② 地域別では、最も輸出率の高いのは「北海道・東北」で2.5%、「機会があれば輸出したい」が「関東」で9.5%と高い。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、最も輸出率が高いのは「1,000頭～」で9.0%とほとんどこの規模の農場が輸出している。「機会があれば輸出したい」では、「500～900頭」で14.1%と高い。
- ④ 「既に輸出している」との回答の輸出先として、ほとんどが「香港」を挙げている。
- ⑤ 「輸出について準備中」との回答の輸出予定先として、「台湾」が挙げられた。
- ⑥ 「機会があれば輸出したい」との回答の輸出先として、「香港」「シンガポール」「タイ」などが挙げられた。
- ⑦ 「販売先から、販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている」では「香港」「シンガポール」などが挙げられた。
- ⑧ 輸出の対象国としては「香港」が一番多く聞かれ、次いで「シンガポール」となっている。

[表79] 輸出の状況について：地域別 (N=624)

	N=	すでに輸出している	輸出に向けて準備中	機会があれば輸出したい	販売先から販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている	特に考えていない
全国	624	1.4	0.5	6.3	2.4	89.4
北海道・東北	160	2.5	0.6	5.6	5.0	86.3
関東	168	0.6	0.0	9.5	1.8	88.1
北陸	24	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
東海	56	1.8	0.0	1.8	0.0	96.4
近畿	17	0.0	0.0	5.9	5.9	88.2
中国・四国	42	0.0	0.0	4.8	0.0	95.2
九州・沖縄	157	1.9	1.3	6.4	1.9	88.5

(経営体数) (%)

[表80] 輸出の状況について：子取り用雌豚飼養規模 (N=545)

	N=	すでに輸出している	輸出に向けて準備中	機会があれば輸出したい	販売先から販売・出荷した豚肉が輸出されたと聞いている	特に考えていない
全体	545	1.3	0.4	6.1	2.6	89.7
1～19頭	41	0.0	0.0	7.3	0.0	92.7
20～49頭	62	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
50～99頭	82	0.0	0.0	6.1	1.2	92.7
100～199頭	96	0.0	0.0	6.3	1.0	92.7
200～499頭	133	0.8	0.0	3.8	3.8	91.7
500～999頭	64	0.0	1.6	14.1	3.1	81.3
1,000頭～	67	9.0	1.5	7.5	7.5	74.6

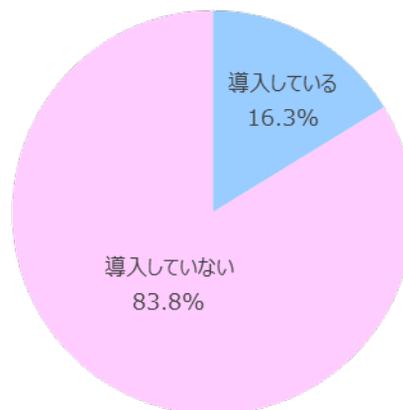
(経営体数) (%)

■17.農場 HACCP・GAP について

□HACCP 導入状況

- ① 農場HACCPの導入有無では、「導入している」16.3%と、昨年度の10.5%より5.8%増加している。
- ② 地域別では、「北陸」が22.7%と高く、「近畿」が9.1%と低くなっている。
- ③ 子取り用雌豚飼養規模別では、「導入している」が「500～999頭」で37.5%、「1,000頭～」で45.8%。200頭未満では「導入していない」が9割以上となっている。
- ④ [表83] HACCP導入農場のGAP取得状況では地域別の「全国」で「既に取得している」が25.6%、「北海道」で50.0%と高い。
- ⑤ [表85] HACCP未導入農場の動向では地域別の「全国」で「導入予定はない」が54.3%、「今後HACCPの導入を検討」が27.6%。

【図30】 HACCP の導入率：全国 (N=554)



【表81】 HACCP の導入率：地域別 (N=554)

	N=	導入している	導入していない
全国	554	16.3	83.8
北海道・東北	153	19.6	80.5
関東	157	14.6	85.3
北陸	22	22.7	77.2
東海	45	13.3	86.7
近畿	11	9.1	90.9
中国・四国	42	11.9	88.2
九州・沖縄	124	16.1	83.9

(経営体数) (%)

[表82] HACCP の導入率：子取り用雌豚飼養規模別 (N=484)

	N=	導入している	導入していない
全体	484	17.2	82.6
1～19頭	33	3.0	97.0
20～49頭	61	1.6	98.4
50～99頭	69	5.7	94.1
100～199頭	85	7.2	93.0
200～499頭	113	18.5	81.4
500～999頭	64	37.5	62.6
1,000頭～	59	45.8	54.4

(経営体数) (%)

[表83] HACCP 導入農場のGAP 取得状況：地域別 (N=90)

	N=	既に取得している	取り組んでいる	取り組むことを検討中	取り組む予定はない
全国	90	25.6	24.4	26.7	23.3
北海道・東北	30	50.0	13.3	26.7	10.0
関東	23	26.1	34.8	26.1	13.0
北陸	5	0.0	40.0	0.0	60.0
東海	6	16.7	0.0	66.7	16.7
近畿	1	0.0	0.0	0.0	100.0
中国・四国	5	0.0	0.0	20.0	80.0
九州・沖縄	20	5.0	40.0	25.0	30.0

(経営体数) (%)

[表84] HACCP 導入農場のGAP 取得状況：子取り用雌豚飼養規模別 (N=84)

	N=	既に取得している	取り組んでいる	取り組むことを検討中	取り組む予定はない
全体	84	26.2	25.0	26.2	22.6
1～19頭	1	0.0	0.0	100.0	0.0
20～49頭	1	0.0	0.0	0.0	100.0
50～99頭	4	0.0	25.0	25.0	50.0
100～199頭	6	33.3	0.0	33.3	33.3
200～499頭	21	23.8	23.8	28.6	23.8
500～999頭	24	25.0	12.5	33.3	29.2
1,000頭～	27	33.3	44.4	14.8	7.4

(経営体数) (%)

【表85】 HACCP 未導入農場の動向：地域別 (N=90)

	N=	HACCPを 現在申請中	HACCPの 導入を検討中	今後HACCPの 導入を検討	JGAP取得を 検討	GAPチャレンジ システムに取り組む ことを検討	導入予定はない
全国	464	3.7	9.9	27.6	1.5	3.0	54.3
北海道・東北	123	7.3	11.4	26.0	4.1	1.6	49.6
関東	134	2.2	11.2	26.9	0.7	3.0	56.0
北陸	17	0.0	5.9	29.4	0.0	5.9	58.8
東海	39	2.6	0.0	25.6	0.0	7.7	64.1
近畿	10	10.0	0.0	30.0	0.0	0.0	60.0
中国・四国	37	0.0	18.9	32.4	0.0	0.0	48.6
九州・沖縄	104	2.9	8.7	28.8	1.0	3.8	54.8

(経営体数) (%)

【表86】 HACCP 未導入農場の動向：子取り用雌豚飼養規模別 (N=400)

	N=	HACCPを 現在申請中	HACCPの 導入を検討中	今後HACCPの 導入を検討	JGAP取得を 検討	GAPチャレンジ システムに取り組む ことを検討	導入予定はない
全体	400	3.5	10.3	28.2	1.8	3.3	53.0
1～19頭	32	3.1	6.3	18.8	0.0	6.3	65.6
20～49頭	60	0.0	3.3	23.3	0.0	0.0	73.3
50～99頭	65	1.5	1.5	23.1	3.1	3.1	67.7
100～199頭	79	0.0	6.3	30.4	1.3	1.3	60.8
200～499頭	92	4.3	12.0	39.1	2.2	5.4	37.0
500～999頭	40	5.0	27.5	32.5	2.5	2.5	30.0
1,000頭～	32	18.8	28.1	15.6	3.1	6.3	28.1

(経営体数) (%)

お詫びと訂正

本報告書4ページ目、「12.経営の推移と今後の動向（飼育頭数の推移）」の項目について、**配布した冊子の数字が間違っておりました。**お詫びして本データのように訂正いたします。